

徳島大学

(別添資料・データ)

1. 教育に関する目標

資料1-1	徳島大学2007学びのファーストステップ
資料1-2	TOEIC実施状況
資料1-3	高校履修アンケート、復習テストから高大接続を考える
資料1-4	平成19年度英語統一試験（TOEIC-IPテスト）結果の分析と考察
資料1-5	文部科学省 大学教育改革支援事業一覧
資料1-6	平成19年度蔵本地区教育部共通カリキュラム科目履修登録者数一覧
資料1-7	就職活動支援・キャリア形成支援プログラム年間行事予定一覧
資料1-8	各種国家試験等の合格者数調
資料1-9	教育の成果・効果を検証するためのアンケート調査実施概要
資料1-10	教育効果を検証し、教育改善のためのPDCAサイクル
資料1-11	平成20年度徳島大学入学者選抜実施日程
資料1-12	徳島大学全学共通教育カリキュラム
資料1-13	学習経路表示（Learning Path Finder）
資料1-14	平成19年度インターンシップ実施状況調
資料1-15	大学院共通科目一覧表
資料1-16	成績評価基準の公表
資料1-17	徳島大学無線ネットワークサービス提供エリア
資料1-18	創成学習開発センター活動状況一覧
資料1-19	平成19年度全学FD徳島大学教育カンファレンスプログラム
資料1-20	平成19年度放射線業務従事者の教育訓練実施状況
資料1-21	教職員のための学生支援の手引き
資料1-22	19年度学生相談室来室者
資料1-23	19年度学生相談室・職員相談室行事
資料1-24	メンタルヘルスケア及びハラスメント等に関する講演会実施状況
資料1-25	平成19年度体育系サークルリーダー研修会実施日程表

2. 研究に関する目標

資料2-1	国立大学法人徳島大学基本構想
資料2-2	国立大学法人徳島大学第一期基本計画
資料2-3	研究連携推進機構
資料2-4	徳島大学における施設の管理運営に関する規則による共用施設
資料2-5	徳島大学の施設使用料に関するガイドライン
資料2-6	学部間の連携・融合研究事例（平成16～19年度）
資料2-7	平成20年度からの大学院ヘルスバイオサイエンス研究部組織
資料2-8	徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部組織
資料2-9	学長裁量ポスト採用者一覧
資料2-10	競争的資金を活用した任期付き教員等リスト
資料2-11	フロンティア研究センターの構成
資料2-12	寄附講座及び受託講座教員一覧
資料2-13	徳島大学設備マスタープラン
資料2-14	学術雑誌の整備方策について
資料2-15	国立大学法人徳島大学職務発明規則
資料2-16	徳島大学の知的財産ポリシーおよび利益相反ポリシーに関するQ&A
資料2-17	大学発ベンチャー企業に係る兼業についての考え方
資料2-18	産学官連携情報配信システム-TPAS-Net（ティーパス・ネット）-

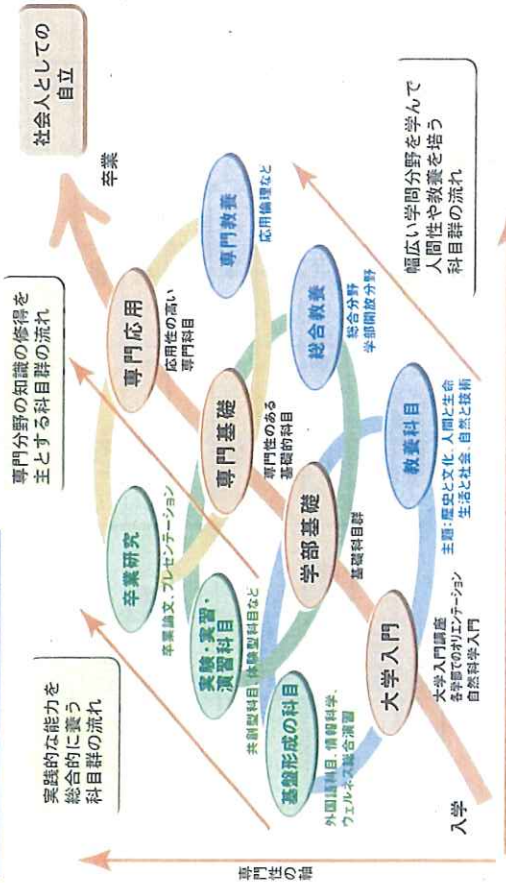
3. 社会との連携，国際交流等に関する目標

- 資料3-1 徳島地域連携協議会設置要項，平成19年度徳島地域連携協議会委員名簿
- 資料3-2 社会連携推進機構
- 資料3-3 平成19年度地域連携事業成果報告書
- 資料3-4 地域医療連携センターのご紹介
- 資料3-5 徳島大学における国際化ポリシー
- 資料3-6 平成19年度学生・地域サポーター活動状況
- 資料3-7 徳島大学国際展開推進シンポジウム

学びの過程

大学での学びの過程は、大学での学びに適應し、教養教育、学部学科の基礎、専門の基礎、専門の応用面を学んで、社会人としての自立へとつながっていくという流れになっています（下図）。全学共通教育は、新入生オリエンテーション、大学入門講座で始まる「学びのファーストステップ」です。

徳島大学での学びの過程



一般性・多様性の精

声

大学に入ったところ、共通教育について「これは何のためにあるのだろう。時間の無駄じゃないのか」と思っていた。でも今では、共通教育はなくてはならないものだと思信している。共通教育が私に新たな世界を見せてくれたからだ。

印象に残ったのは、素粒子と国際政治学の授業だ。どちらも自分の専門とは全然違う。でも、素粒子の世界はとて楽しく、物理学に興味を持つきっかけになった。国際政治学の授業では、世界の紛争などを学んだ。日本では考えられないことが世界で起こっており、自分にも何かできることはないだろうかかと関心を持つようになった。

共通教育は、新たな世界への扉となりうる。将来の道が専門だけでなく、他にもあるということを知ることができた。みなさんも、共通教育を通して自分自身を成長させてください。

（工学部・三年生 石川 智宏）

全学共通教育のカリキュラム

全学共通教育の授業は、①「大学入門科目群」、②「教養科目群」、③「基礎形成科目群」、④「基礎科目群」の4科目群に分類されています。

それぞれの科目群・授業科目に対して、履修すべき単位数が、学部学科ごとに決められています。全体としてバランスよく履修して、目標を達成できるように、授業内容、授業数が用意され、授業概要（シラバス）や時間割に示されています。履修の仕方などについては『履修の手引』に詳しく説明してあります。

① 大学入門科目群

大学での学びに適應し、主体的に知的訓練に取り組み態度を養う科目群です。

大学入門講座(必修)

大学での学びを始めるために基本的な事柄、学びの技、心と体の健康などを、入学時のオリエンテーション期間や合宿研修において学びます。

自然科学入門(自由選択)

高校で学んでいない科目を学ぶことができます。数学、物理学、生物学が開講されます。

② 教養科目群

社会人としての豊かな人間性と高い倫理観を培う科目群です。「人文科学の知」、「社会科学の知」、「自然科学の知」を融合し、「総合科学の知」の創造を目指します。

幅広い分野の教養科目の内容を、現代における様々な問題と関連付けて授業を選択できるように4つのテーマに基づいて分類（歴史と文化」、「人間と生命」、「生活と社会」、「自然と技術」）されています。多様な授業題目から興味あるものを選択できます。授業は講義形式だけでなく、ゼミナール形式及び共創型学習形式でも行われます。

・日本事情：留学生向けに開講されます。

ゼミナール形式

課題について自ら調べて報告し、少人数で質疑・応答や討論をします。議論が深まるように十分な準備が必要となります。

共通教育段階では、調べ方、報告の仕方、討論の仕方のトレーニングがなされ、大学での学びの準備となります。

共創型学習形式

課題について目的や目標を自分たちで議論をして決め、グループワークで問題を解決していきます。

達成したものをプレゼンテーション（発表）して、互いに評価します。自分で実現したい共創型学習のテーマ探しの際でもあります。

TOEIC実施状況

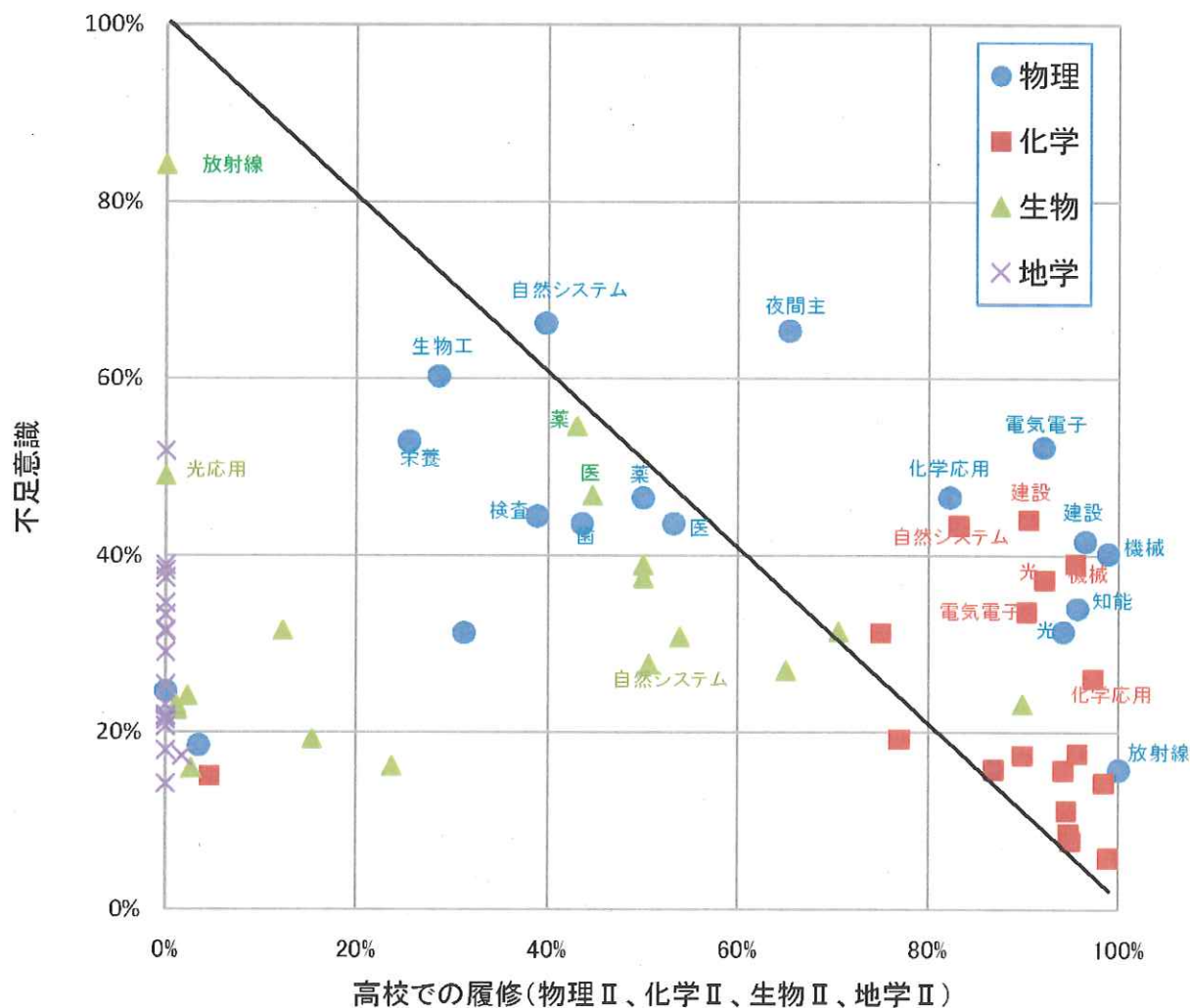
2007年11月17日集計

学部	学科	定員	7/21 欠席者	7/21 受験者数	7/28試験 受験者	受験者 総数	非受 験者	受験率	平均点	最高点	最低点	英語単位認定可能者数			計
												580~679点 (4単位)	680~779点 (6単位)	780点~ (8単位)	
総合科学部	人間社会学科	178	12	166	7	173	5	97.2%	423.79	645	235	8	0	0	8
	自然システム学科	92	11	81	6	87	5	94.6%	345.40	595	165	1	0	0	1
	合計	270	23	247	13	260	10	96.3%	397.56	645	165	9	0	0	9
医学部	医学科	95	8	87	3	90	5	94.7%	616.44	895	220	35	13	9	57
	栄養学科	52	1	51	0	51	1	98.1%	481.96	830	285	5	1	1	7
	保健学科	126	4	122	3	125	1	99.2%	392.88	740	185	5	2	0	7
	合計	273	13	260	6	266	7	97.4%	485.60	895	185	45	16	10	71
歯学部	歯学科	40	7	33	0	33	7	82.5%	501.36	700	315	3	3	0	6
	口腔保健学科	16	0	16	0	16	0	100.0%	359.38	530	220	0	0	0	0
	計	56	7	49	0	49	7	87.5%	455.00	700	220	3	3	0	6
薬学部		87	6	81	1	82	5	94.3%	464.51	830	230	9	0	1	10
	計	87	6	81	1	82	5	94.3%	461.51	830	230	9	0	1	10
	建設工学科	86	7	79	3	82	4	95.3%	324.94	495	185	0	0	0	0
工学部	機械工学科	112	11	101	4	105	7	93.8%	359.33	920	200	0	1	1	2
	化学応用工学科	84	12	72	6	78	6	92.9%	376.73	875	220	1	0	1	2
	電気電子工学科	104	10	94	6	100	4	96.2%	336.55	815	175	2	1	1	4
	知能情報工学科	80	13	67	8	73	7	91.3%	310.82	580	155	1	0	0	1
	生物工学科	64	7	57	3	60	4	93.8%	391.75	610	220	1	0	0	1
	光応用工学科	56	12	44	4	48	8	85.7%	336.46	910	210	0	0	2	2
	夜間主	59	19	40	6	46	13	78.0%	289.24	635	190	1	0	0	1
	計	645	91	554	38	592	53	91.8%	343.02	920	155	6	2	5	13
	小計	1331	140	1191	58	1249	82	93.8%	397.11	920	155	72	21	16	109
	その他(平成18年度入学者注)	1	0	1	0	1	0	100.0%	600.00	600	600	1	0	0	1
合計	1332	140	1192	58	1250	82	93.8%	397.27	920	155	73	21	16	110	

注:その他該当者は、平成18年度入学者1名(生物工学科)です。

注:7/28には11/17受験6人(医学科3人、放射1人、光1人)を含む。

高校で理科履修率と大学入学時の不足意識



グラフの見方: 横軸は高校で履修したと回答した学生の割合を示す。縦軸は、「これから大学で学習するために、高校の学習では不足しているのではないか」と回答した学生の割合を示す。たとえば、電気電子学科では92%が物理を履修したのに対し、52%が物理に不足意識を持っている。履修していない8%を除くと44%の学生が履修したにもかかわらず、苦手意識を持っているということになる。

平成 19 年度英語統一試験 (TOEIC-IP テスト) 結果の分析と考察

山内晴彦、上野加代子、佐野勝徳
(全学共通教育センター)

1. はじめに

全学共通教育センターでは、英語教育を「諸科学の基本的な思考力や言語運用能力などを身に付け、自立的学習の基盤を形成する基礎形成科目群」の1つに位置づけ、「基礎英語」、「主題別英語」および「発信型英語」の授業を行っている。加えて、「統一英語能力試験を取り入れて、コミュニケーション力の養成を旨とする」ことを中期計画に掲げ、その実施に向けて検討を行い、2006年度から TOEIC-IP を新入生全員に実施している。

2. 統一英語試験導入の目的とその概要

統一英語能力試験の導入の主な目的は、「学生の英語能力を客観的に把握し、その後の個人指導も含めた英語学習指導に活用することによって、学生の英語能力を効率的に高めるとともに、英語学習へのモチベーションを高めること」にある。統一英語試験導入に際しての甲合せの概要は、以下の通りである。

- ① 新入生全員に TOEIC-IP を学内で受験させる。
- ② 実施の期間は、2006・2007 年度の 2 年間とする。その間に WG を設け、統一試験のあり方等について検討し、その後の対応を考える。
- ③ 「TOEIC 準備」のオリエンテーション等を行う。試験結果を英語の授業に活用する。
- ④ 試験結果は、従来通り、単位認定に用いる。
- ⑤ 受験料の一部 (一人当たり千円) は学生から徴収、残りの受験料及び必要経費は大学が負担。
- ⑥ 実施義務は業者 (現在は鶴大生協) に委託する。なお、統一英語試験に関する NG (上野加代子委員長) で、2 年間にわたり、TOEIC-IP に替わる統一試験について、検討した結果、「本学の英語教育にふさわしい内容の統一試験は実施可能であるが、文部科学省の定める英語の単位認定条件をクリアできない」との現時点での一応の結論が

出された。そこで、2008 年度以降も当面 TOEIC-IP を継続することとした。

3. TOEIC-IP 試験成績の年度間比較

2006、2007 年度の受験率は、各々 95.2%、93.4% であった。今年度の平均点は、397 点で、昨年度の 381 点に比べ、1%水準で有意に高くなっている。これをリスニングとリーディングに分けてみると、リスニングのみ有意であった (表 1)。おそらく、大学入試センター試験にリスニングが導入されたことによるものと思われる。

本学では、以前から種々の外国語統一試験成績に基づき単位認定を行っているが、TOEIC (IP を含む) による単位認定基準は、①780 点以上の者は 8 単位認定、②680~779 点の者は 6 単位認定、③580~679 点の者は 4 単位認定可能としている。2007 年度の単位認定可能者は、108 人、全体の約 6.3% であった。そのうち 55 人が、医学部医学科の学生で、その割合は、約 52% であった。

表 1 TOEIC-IP 成績等の年度間比較

年度	2006	2007
受験有資格者数	1340	1332
受験者数	1276	1244
受験率 (%)	95.2	93.4
リスニング**	209.1 ± 59.7	227.7 ± 61.5
リーディング	172.0 ± 65.3	169.2 ± 68.8
トータル**	381.1 ± 114.2	396.8 ± 122.4
認定可能者数(A)	4(3)	15(8)
認定可能者数(B)	15(10)	21(13)
認定可能者数(C)	66(36)	72(34)
認定可能者数(計)	85(49)	108(55)

注 1) ** p<0.1 by t-test

注 2) 認定可能者数(A)(B)(C)は、各々 8、6、4 単位の単位認定可能者。カッコ内の数値は医学部医学科の人数。

4. TOEIC-IP 成績の分布

図 1 は、2007 年度に受験した全学生の TOEIC-IP の得点分布である。図 2 は、学科別に算出した平均得点が最も高かった医学部医学科 (95 人受験) の分布である。

全体 (図 1) では、リーディングの得点分布が、リスニングのそれに比べて、低得点側に位置していることが、はっきりと読み取れる。一方、A 学部 B 学科 (図 2) では、両分布間にそのよう違いは認められない。また、同学科は、高得点側の分布となっている。このように分布の形状等が学科によって異なる傾向あることも認められた。

5. TOEIC-IP 成績の授業での活用について

英語の授業は、主に学科単位をベースにクラス分けを行い、実施されている。そこで、学科ごとの「個人の成績一覧」と、「リスニング、リーディングおよび合計得点の平均点、標準偏差、最高点、最低点等」とりまとめた表「および分布図」

を担当教員に送付し、「これらのデータを有効に活用し、学生の能力に応じたきめ細かい授業を実施するよう、依頼している。さらに、各学期の終了後に、授業報告書を出していただくよう求めている。この方法は、今年度の授業終了後から取り入れたものであり、後期の授業終了後に分析を試みる予定である。

6. おわりに

TOEIC-IP 試験を導入して 2 年目であるが、今後検討しなければならない点が多々存在する。「TOEIC の成績で単位を認定した上で、さらに高いレベルの教育を施す必要はないのか」、「英語教育の成果をみるため、2 年次に再度統一試験を実施してはどうか」、「成績の低い学生にとっては、むしろモチベーションを低下させているのでは」等々である。

これらについて、引き続き WG で十分検討し、改善をしていきたいと考えている。

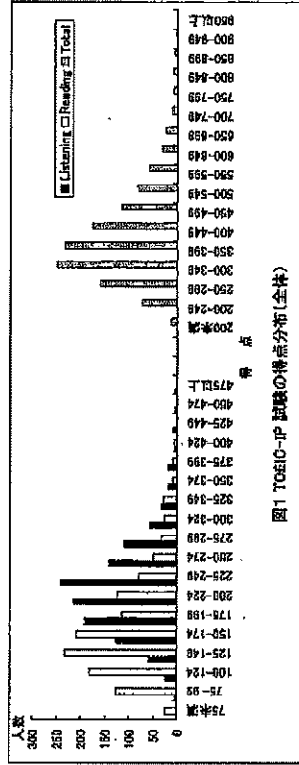


図 1 TOEIC-IP 試験の得点分布(全体)

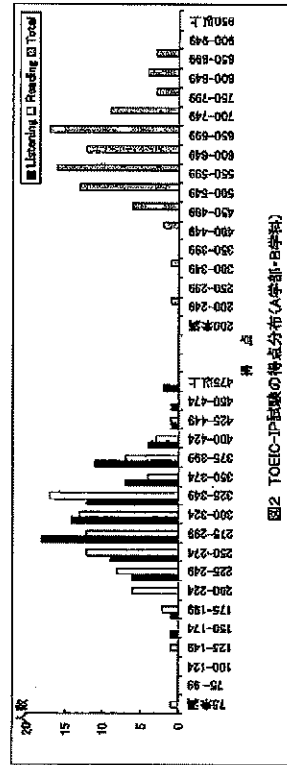


図 2 TOEIC-IP 試験の得点分布(医学部医学科)

文部科学省 大学教育改革支援事業一覧

平成19年3月6日作成

採択年度	プログラム名	申請区分・細分	プロジェクト名	部高等	財政支援期間
平成15年度	特色ある大学教育支援プログラム	主として教育方法の工夫改善に関するテーマ	「進取の気風」を育む創造性教育の推進	工学部	4年
平成16年度	現代的教育ニーズ取組支援プログラム	ITを活用した実践的遠隔教育(e-Learning)	ユビキタス技術による新しい学習環境の創生	工学部	3年
平成17年度	「魅力ある大学院教育」イニシアティブ	医療系	食品機能研究を先導する人間栄養学教育拠点	栄養生命科学教育部	2年
	大学教育の国際化推進プログラム	戦略的国際連携支援	複数学位を与える国際連携大学院教育の創設	先端技術科学教育部	4年
平成18年度	「魅力ある大学院教育」イニシアティブ	医療系	歯科専門医教育の指導者養成プログラム	口腔科学教育部	2年
	現代的教育ニーズ取組支援プログラム	地域活性化への貢献(地元型) 持続可能な社会につながる環境教育の推進	医療系学生の保育所実習による子育て支援	医学部	3年
平成18年度	大学教育の国際化推進プログラム	海外先進教育研究実践支援	豊饒な吉野川を持続可能とする共生環境教育	総合科学部	3年
	地域医療等社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム	臨床能力向上に向けた薬剤師の養成	国際感覚を育む統合的な医療人教育の推進	医学部	1年
平成19年度	産学連携による高度人材育成(委託事業)派遣型高度人材育成協働プログラム	—	医療の現場と直結した薬剤師養成教育の実践	薬学部	3年
	中国・四国広域がん専門医療人養成プログラム	—	経営センスを有するπ型技術者の協働育成	先端技術科学教育部	5年
平成19年度		—	—	医科学教育部・栄養生命科学教育部・保健科学教育部・薬科学教育部	5年

平成19年度 蔵本地区教育部共通カリキュラム科目 履修登録者数一覧

科目名	授業担当責任教員名	登録者数(履修登録者数)					計(名)
		医科学 教育部	口腔科学 教育部	薬科学 教育部	栄養生命科学 教育部	保健科学 教育部	
各専攻系間の 共通カリキュラム科目	生命倫理入門 *	108	7	4	10	7	136
	臨床心理学 *	26	15	18	24	2	85
	社会医学・疫学・医学統計入門 *	41	5	3	16	11	76
	英語論文作成入門 *	49	4	10	19	4	86
	ヒューマンサイエンス(形態と機能学)	7	2	—	3	5	17
	臨床薬理学入門	13	—	14	4	—	31
	微生物・疫学入門実習	4	6	—	—	—	10
	臨床医科学入門 *	65	9	—	12	9	95
	プロテオミクス概論	24	1	—	9	—	34
	ゲノム創薬特論	9	—	56	6	—	71
ビタミン・栄養	開講なし						
健康食品・漢方	—	—	24	22	—	46	

* はe-Learning科目を示す。

就職活動支援・キャリア形成支援プログラム年間行事予定一覧

	4～6月	回数	7～9月	回数	10～12月	回数	1～3月	回数
1年次生	・なぜ大学へ入学したか	5			・女子学生のキャリアデザイン ・進路による生活スタイルの違い ・価値ある学生生活とは	2 5 5		
2年次生	・インターンシップとは ・社会観・職業観 ・自分と仕事を ・公務員対策講座	2 2 2 毎週	・公務員対策講座	毎週	・コミュニケーション育成 ・問題解決能力育成 ・マネジメント能力育成 ・公務員対策講座	2 2 2 毎週	・目標設定 ・公務員対策講座	1 毎週
3年次生	・インターンシップ ・公務員対策講座 ・就職相談・面接指導	適宜 毎週 毎週	・就職ガイダンス ・業界研究 ・社会人常識・マナー ・インターンシップ ・公務員対策講座 ・就職相談・面接指導	2 1 1 適宜 毎週 毎週	・就職ガイダンス ・SPIトレーニング ・対人能力トレーニング ・自己分析 ・エントリーシート ・業界セミナー ・業界研究 ・合同企業説明会(学外) ・社会人常識・マナー ・公務員試験説明会 ・公務員対策講座 ・就職相談・面接指導	4 1 1 1 2 1 1 2 1 1 毎週 毎週	・業界セミナー ・合同企業説明会(学内) ・合同企業説明会(学外) ・個別企業説明会 ・面接に必要なマナー ・警察官採用説明会 ・公務員試験説明会 ・公務員対策講座 ・就職指導・面接指導	2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 毎週 毎週
4年次生	・警察官採用説明会 ・教員採用説明会 ・教員対策模擬面接 ・公務員対策講座 ・就職相談・面接指導	3 1 3 毎週 毎週	・教員対策模擬面接 ・公務員対策講座 ・就職相談・面接指導	1 毎週 毎週	・就職相談・面接指導	毎週		

各種国家試験等の合格者数調

学務部

年度	医学部										歯学部				薬学部									
	医師免許		管理栄養士免許		看護師免許		診療放射線技師免許		臨床検査技師免許		助産師免許		保健師免許		歯科医師免許		薬剤師免許							
	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率						
9	105	90	85.7	51	48	94.1	72	69	95.8	39	34	87.2	19	17	89.5	20	20	100	53	53	100	106	61	57.5
10	110	98	89.1	51	48	94.1	79	79	100	42	35	83.3	19	19	100	20	19	95	49	46	93.9	124	92	74.2
11	103	86	83.5	53	50	94.3	80	80	100	48	33	68.8	21	21	100	21	21	100	54	41	75.9	127	105	82.7
12	102	96	94.1	48	47	97.9	73	68	93.2	36	20	55.6	19	18	94.7	19	19	100	68	65	95.6	109	86	78.9
13	105	91	86.7	50	50	100	79	69	87.3	66	42	63.6	19	17	89.5	20	18	90	68	60	88.2	106	87	82.1
14	104	95	91.3	50	45	90	84	81	96.4	59	44	74.6	19	18	94.7	21	21	100	62	58	93.5	106	79	74.5
15	98	87	88.8	53	46	86.8	79	77	97.5	39	35	89.7	18	17	94.4	19	19	100	58	51	87.9	112	87	77.7
16	108	102	94.4	56	55	98.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	19	19	100	72	59	81.9	102	89	87.3
17	89	76	85.4	52	50	96.2	65	64	98.5	34	32	94.1	16	16	100	19	18	94.7	75	61	81.3	73	59	80.8
18	105	91	86.7	52	47	90.4	66	66	100	35	32	91.4	15	15	100	17	17	100	76	76	100	72	61	84.7
19	104	92	88.5	47	45	95.7	64	62	96.9	36	34	94.4	15	15	100	17	17	100	73	72	98.6	60	54	90

教員採用試験合格者

【総合科学部】

年度	徳島	愛媛	香川	大阪	京都	兵庫	滋賀	鳥取	横浜
13	1								
14	9		1						
15	1							1	
16	1	1		2		1			
17		1							
18	1				1	1			
19						1			1

【工学部】

年度	徳島	愛媛	香川	大阪	京都	兵庫	滋賀	鳥取	横浜
13									
14	1								
15		1							
16									
17									
18									
19									

年度	総合科学部				工学部			
	国家公務員 I種	地方公務員 I種	中学校	高校	国家公務員 I種	地方公務員 I種	中学校	高校
9	3	10	63	88		10	18	
10	5	5	47	60		6	12	
11	5	10	42	51	1	10	13	
12	3	11	34	57	2	15	15	
13	8	14	32	54	1	20	27	26
14	8	22	35	92	7	20	23	44
15	4	18	27	70	4	26	30	74
16	3	17	52	88	9	20	31	29
17	5	8	21	67	9	5	8	57
18	3	12	45	83	10	1	21	50
19	6	19	38	92	7	8	20	28

※ (1) 受験者数及び合格者数は既卒者を含む。

(2) 総合科学部及び工学部の国家公務員については合格者数

(3) 総合科学部及び工学部の地方公務員については県・市等へ就職した新卒者の数

(4) 平成16年度の看護師免許等の空欄については、医療技術短期大学部廃止に伴い、

医学部保健学科へ移行することにより、平成14年度に学生募集停止したことによる。

(5) 平成16年度の助産師免許については、医療技術短期大学部助産学専攻によるもの。

(6) 平成17年度の保健師免許については、17年度より「健学科看護学専攻を卒業する者に受験資格が与えられたもの。

教育の成果・効果を検証するためのアンケート調査実施概要

〔平成19年 9月18日〕
自己点検・評価委員会改正

(1) 目的

教育の効果を検証し、教育改善を図るため、学生・卒業（修了）生・雇用主による教育の成果に関するアンケート調査を実施する。

(2) アンケート実施要領

1) 全学自己点検・評価委員会は、アンケート調査（案）を作成し、その実施を各学部自己点検・評価委員会に指示する。

なお、アンケート調査実施に当たっては、実施担当者及び対象者の負担をできる限り軽くする。

2) 各学部等において下表の要領でアンケート調査を実施する。

なお、アンケート調査用紙は、全学自己点検・評価委員会が作成した全学共通の様式を原則として使用するが、各学部等の特長により修正をしてもよい。

		学生アンケート	卒業(修了)生アンケート	雇用主アンケート
実施時期・周期, 回数		各科目単位で年1回実施 各授業終了（試験実施時期）時	6年以内に1回実施	6年以内に1回実施
対 象	対 象 者	各学部・研究科・教育部の各学年	各学部・研究科・教育部の卒業・修了後6年以内の1学年	卒業・修了生が10年以内に就職した企業・医療機関等
	人（社・医療機関）数（アンケート回収目標数）	各授業出席者20%以上	各定員の50%程度	10～50社・医療機関程度
配布・回収方法		授業担当教員が配布・回収する。	郵送・電子メールにより配布・回収する。	郵送・電子メールにより配布・回収する。
集計・分析作業		各学部等自己点検・評価委員会で集計・分析を実施し、その結果を全学自己点検・評価委員会へ報告する。		

3) 各学部等自己点検評価委員会からアンケート調査の集計・分析結果の報告を受け、全学自己点検評価委員会では、大学全体としてアンケート調査結果の総括・評価を行う。

4) 全学自己点検評価委員会は、アンケート調査の分析結果を基に、新しい調査項目導入等アンケート調査の改善を図り、調査（案）を各学部等自己点検評価委員会に指示する。

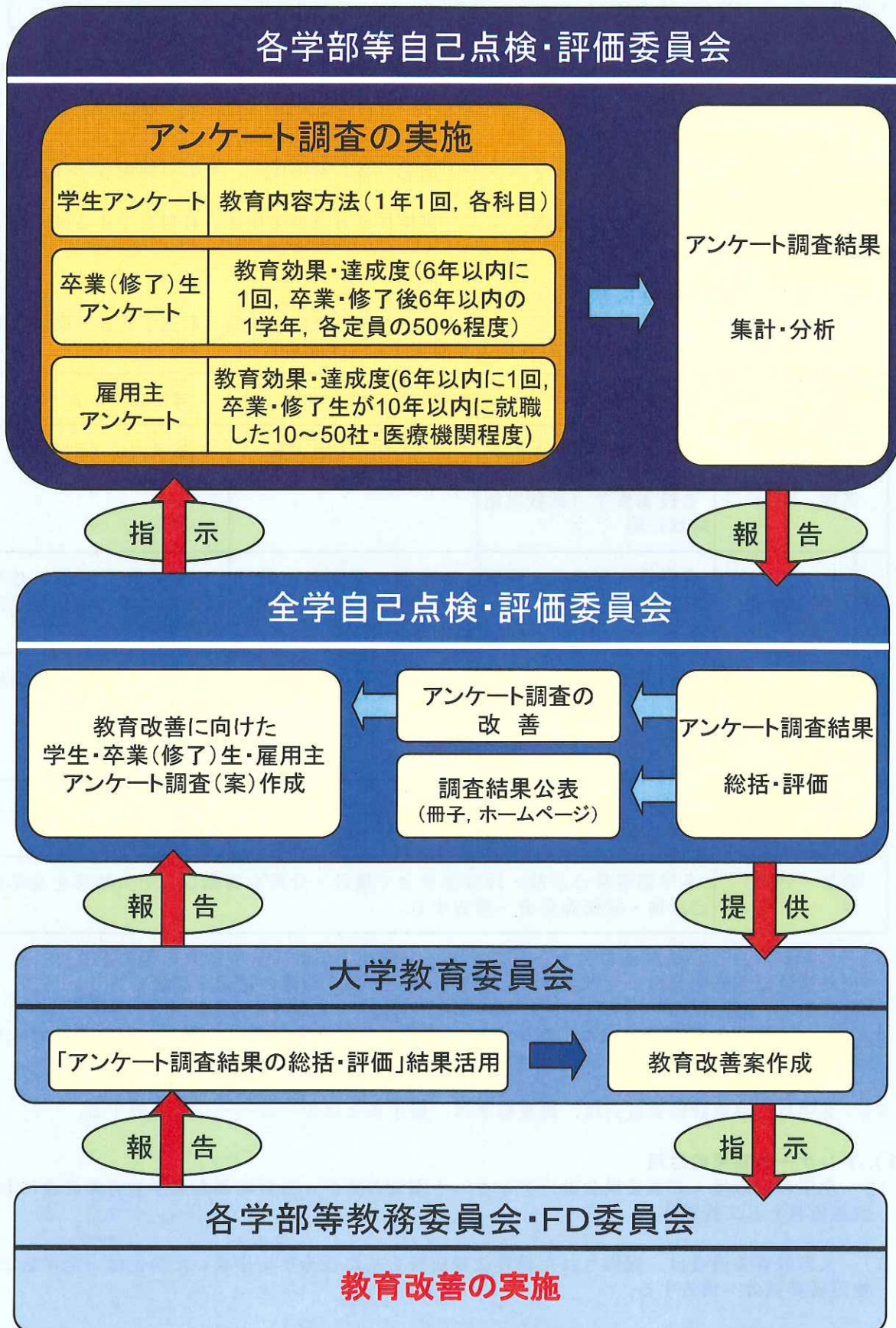
5) 全学自己点検評価委員会は、調査結果は、冊子またはホームページで公表する。

(3) アンケート結果の活用

1) 全学自己点検・評価委員会は、アンケート調査の集計・分析結果を大学教育委員会に教育改善資料として提供する。

2) 大学教育委員会は、提供された教育改善資料を基に改善案を作成した場合は、全学自己点検評価委員会へ報告する。

教育効果を検証し、教育改善のためのPDCAサイクル



平成20年度 徳島大学入学者選抜実施日程

【大学入試センター試験を課す選抜】

選 抜 区 分	一 般 選 抜		推 薦 II (工[夜]を除く全学部)
	前 期 日 程	後 期 日 程	
出願受付期間	平成20年1月28日(月)～2月6日(水)		平成20年1月22日(火)～25日(金)
入 学 試 験 日	第 1 段 階 選 抜		第 1 次 選 考 (医[保]・歯[口]を除く)
	平成20年2月13日(水) (医[医]・歯[歯])	平成20年2月18日(月) (歯[歯])	平成20年2月8日(金)
	平成20年2月25日(月) (医[医]・歯[歯]:2月25～26日)	平成20年3月12日(水)	平成20年2月11日(月)
合格者発表日	平成20年3月7日(金)	平成20年3月21日(金)	平成20年2月13日(水)
入学手続期間	平成20年3月14日(金) ～15日(土)	平成20年3月26日(水) ～27日(木)	平成20年2月16日(土) ～17日(日)

【大学入試センター試験を課さない特別選抜】

選 抜 区 分	推 薦 I (総[人]・工)	帰 国 子 女 (歯[口]・工[夜]を除く全学部)	社 会 人 (総・医[看]・工[夜])
出願受付期間	平成19年11月1日(木)～5日(月)		
第 1 次 選 考	平成19年11月14日(水)		
入 学 試 験 日	平成19年11月30日(金) (総:平成19年11月30日(金)～12月1日(土))		平成19年11月30日(金) (総:平成19年12月1日(土))
合格者発表日	平成19年12月17日(月)		
入学手続期間	平成20年2月16日(土)～17日(日)		

【私費外国人留学生選抜】

実 施 学 部 名	総合科学部・工学部 (工[夜]を除く)	医学部・歯学部 [歯]・薬学部
出願受付期間	平成19年12月20日(木)～平成20年1月11日(金)	
入 学 試 験 日	平成20年2月18日(月)	平成20年2月25日(月)
合格者発表日	平成20年2月29日(金)	平成20年3月7日(金)
入学手続期間	平成20年3月14日(金)～15日(土)	

(注) 1 推薦入学のうち大学入試センター試験を課さないものは「推薦Ⅰ」、課すものは「推薦Ⅱ」と表記します。

2 大学入試センター試験を課さない特別選抜の第1次選考は、推薦Ⅰ及び社会人については総合科学部において、帰国子女については工学部を除く各学部等において実施します。

全学共通教育カリキュラムの科目群

科目は次の4つの科目群に区分されています。それぞれ先に示した目的と対応しています。科目群は、何のために何を学ぶか、その位置づけが理解し易い構成になっています。全体としてそれぞれの科目群・授業科目に対して、履修すべき単位数が、学部学科ごとに決められています。全体としてバランス良く履修して、目標を達成できるように、授業内容、授業数が用意され、授業概要(シラバス)や時間割に示されています。履修の方法などについては「履修の手引」に詳しく説明してあります。ここでは科目群と授業科目についての概略を説明します。

大学入門科目群

目的1 大学での学修に適應し、主体的に知的訓練に取り組み態度を養う。

大学入門講座(必修)

大学での学びを始めるために基本的な事柄、学びの技、心と体の健康などを、入学時のオリエンテーション期間や合宿研修において学びます。

自然科学入門(自由選択)

高校で学んでいない科目を学ぶことができます。数学、物理学、生物学が開講されます。



教養科目群

目的2 社会人としての豊かな人間性と高い倫理観を培う。

- 歴史と文化
- 人間と生命
- 生活と社会
- 自然と技術

(選択必修)
内容は次のページを見て下さい。

幅広い分野の教養科目の内容を、現代における様々な問題と関連付けて授業を選択できるように4つのテーマに基づいて分類(「歴史と文化」、「人間と生命」、「生活と社会」、「自然と技術」)されています。多様な授業科目から興味あるものを選択できます。授業は講義形式だけでなく、ゼミナール形式及び創成学習形式でも行われます。**日本事情**(留学生向けに開講されます)

ゼミナール形式: 課題について自ら調べて報告し、少人数で質疑・応答や討論をします。議論が深まるように十分な準備が必須となります。共通教育段階では、調べ方、報告の仕方、討論の仕方のトレーニングがなされ、大学での学び方の準備となります。

創成学習形式: 創成学習開発センターと共同で始める新しい形式です。共通教育段階では、課題について目的や目標を自分たちで議論を深め、グループワークの問題を解決していきます。達成したものをプレゼンテーション(発表)して、互いに評価します。自分で実現したい創成学習のテーマ探しの場でもあります。創成学習開発センターのパンフレットも参考にしてください。

教養科目群で学ぶことは?

授業の内容を聞いて理解すること? それだけではありません。授業のテーマの中に自分自身と自分の考えを持っていることを見いだすことです。

歴史と文化

- ・人間の営みが創造してきた文化や社会事象とその過程、現れ方を学び、現代社会におけるそれらの意義を考えます。
- ・歴史を学び、形成された文化や人間の有り様の表現、その広がりを学び、その意味について考え、探求してみよう。
- ・人文科学分野(歴史学、文学、言語学、考古学、地理学、文化人類学、芸術など)を中心に社会科学分野(経済学、社会学など)への視野を広げた授業科目で構成されています。



人間と生命

- ・人間の思考・行動・行為とその身体・生命に関わる科学的・倫理的課題についての思索を深める科目です。
- ・これからの世紀は、生命を人類が操作できる時代となります。生命についての基礎的な知識を得て、生命に関わる問題への適切な判断や、生命倫理、倫理的であることの意味などの根本的な問いを思索することがテーマとなり、科学リテラシーと人間・生命の理解とを統合的に考えるために導入された新しい科目です。
- ・人文科学分野(哲学、倫理学など)、人間行動科学分野(心理学、教育学、行動科学など)、生命科学分野(生物学、生命科学など)を含む複合的な分野の授業科目で構成されています。



生活と社会

- ・社会の仕組みを理解し、現代社会を取り巻く様々な諸課題について考える科目です。
- ・社会の現象の理解、人間の集団の特性、社会の成り立ち、それを律する法律、社会を動かしている経済、政治、国際的関係などについての理解を深めよう。
- ・社会科学分野(法律学、政治学、経済学、経営学、社会学など)を中心として、医学分野、工学・技術分野などへ視野を広げた授業科目で構成されています。

自然と技術

- ・自然の構造や成り立ち、物質の反応の有様、現象のあり方と科学技術の進歩について理解し、さらには科学技術の社会生活への影響などについて考える科目です。
- ・技術が社会を動かす時代でもあり、技術の基礎、自然についての理解、技術と環境との調和など幅広く科学リテラシーを身につけよう。
- ・これまでの自然科学のみならず工学、医学、歯学、薬学等の応用的な分野を含めることで、現代的な課題を広く学ぶことができます。

基礎形成科目群

目的3 語科学の基本的な思考法や言語運用能力などを身につけ、自立的学習の基盤を形成する。

英語(必修)

- ・基礎英語：大学での英語の学び方身につけます。TOEICなど英語技能検定試験への導入を含みます。
- ・主題別英語：科学・時事・文学・文化・ビデオ教材など内容やラーニング・ライティング・ヒアリング・スピーキングなどのスキルを学びます。
- ・発信型英語：英語を能動的に運用するコミュニケーション力を重視して、それを身につけることを目指す少人数クラスです。

ドイツ語・フランス語・中国語(選択必修)

異なった文化を理解する基礎として、英語以外の外国語を必ず学ぶこととしています。

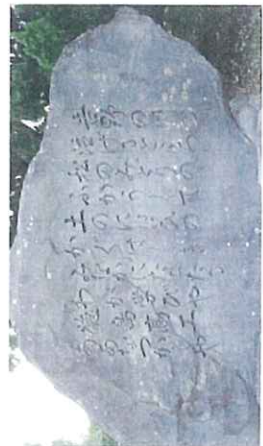
日本語(留学生向けに開講されます)

情報科学(必修)

情報の取り扱い方やその倫理などの基本を学びます。ワープロ、表計算ソフトの使い方が始まって、レポート作成法、パソコンを用いたプレゼンテーションへの応用やインターネットの利用、そのモラルを学びます。

ウエルネス総合演習(必修)

健康とともに生きがいと人間性に満ちた心身の健全性を意味する「ウエルネス」について、スポーツ、生活、科学、文化をテーマにしたながら演習、実習により総合的に学び、考えをもちます。



基礎科目群

目的4 複合的な視点から専門分野を理解し、必要な基礎的知識を身につける。

- 基礎数学、基礎物理学、基礎物理学実験、基礎化学、基礎化学実験、基礎生物学、基礎生物学実験

学部学科に応じて指定される必修の科目です。1つ1つ基本を学ぶことが大切で、専門科目を学ぶときの基本の基本となります。



オフィスアワーってなに?

皆さんの質問や指導のために教員が研究室(オフィス)などに待機している時間帯のことです。質問タイムです。教員は皆さんが来るのを待っています。ウエルカムです。

職員も皆さんを支えます

分からない事は聞いてみてください。分務部に来たら、先ず、「すみませんが…」と声を出してください。こちらからも声をかけます。何を知らなにか、はつきり聞いてください。

学生相談室

日館の1階にあります。困ったら何でも相談できます。秘密は守られます。学生相談員・カウンセラーが対応します。

学生による授業評価アンケートを毎学明行っています。

良い授業とは? 考えてみてください。授業を聞いて、啓発された、分かったことが分かった、達成感があった、これまでできなかったことが出来るようになった、など。

教員の授業力を開発しています。

FD (Faculty Development) と呼びます。合宿研修会やシンポジウムなどで研修しています。

「教育の質を向上させるための学生ワーキンググループ」発足しています。学生の目でみた学習上の問題点などを検討して改善につなげます。

学びを支える仕組み 共通教育編

共通教育 学習支援室で支援します

- 学び方相談、授業の資料を配付、相談教員へ質問できます。相談教員リストは学習支援室に掲示します。
- > English Chat Roomは学習支援室に掲示しています。開催日はポスターをみてください。
- > いろいろな企画があります。提案や意見を待っています。
- > 各学部にも「学習支援室」や「学びの相談室」など設置されています。同時に自習するスペースがあります。

自習のスペース

- 総合科学部3号館1階スタジオ 自習のためのスペースです。もちろん図書館も静かなスペースです。
- 工学部の「学びの相談室」でも自習できます。

英語の自習は、工学部共通講義棟CALL教室(2階)、D館D301(LL)教室でできます。

TOEICの教材や自習用CDなど用意してあります。利用方法などは担当の教員に聞いてください。

授業の話

大学入門講座

大学での学び(How To Study)のヒントです。友達も作りましょう。

自然科学入門

自由選択ですが、高校で学ばなかった科目を学ぶことができます。講義、専門分野では全部必要な基礎的な科目です。

創成学習形式の授業は、自ら問わることから学びます。プレゼンで評価します。

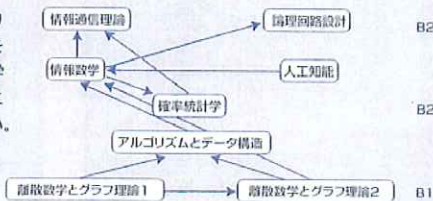
英語を学ぼう

基礎・主題別・発信型でスピーチ・アップ・少人数の発信型は2年次に。

学習経路表示 (Learning Path Finder)

学習経路表示とは、ある授業科目からみて、それより以前に学習しておいて欲しい科目やその後続く科目を矢印で表示するシステムのことです。今のところ、全学共通教育、総合科学部、工学部の授業がこのシステムに組み込まれています。学習計画を立てる際に活用下さい。

<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/dist/LPF/>



平成19年度インターンシップ実施状況調

学部・学科	授業科目	実施学年	受講学生数 (学務課)	受講学生数 (学科)	受講学生数 (計)	受け入れ事業所数 (学務課)	受け入れ事業所数 (学科)	受け入れ事業所数 (計)	実施時期	実施期間	単位化の有無	開始年度
総合科学部 人間社会学科	インターンシップ実習	2~3年	11	13	24	5 (5)	8 (8)	13 (13)	平成19年 4月~ 9月	5~ 7日間	選択 1単位	平成17年度
"	ウェルネス行動科学実習	3年	0	22	22	0 (0)	17 (17)	17 (17)	平成19年4月~平成20年2月	5~ 7日間	必修 2単位	平成 7年度
総合科学部 自然システム学科	インターンシップ実習	2~3年	2	3	5	1 (1)	2 (2)	3 (3)	平成19年 4月~ 9月	5~ 7日間	選択 1単位	平成17年度
工学部 建設工学科	建設工学学外実習	3年	16	43	59	10 (10)	29 (27)	39 (37)	平成19年 7月~12月	5~20日間	選択 2単位	平成14年度
工学部 機械工学科	機械工学実地演習	3年	2	25	27	2 (2)	20 (10)	22 (12)	平成19年 7月~ 9月	5~10日間	選択 1単位	昭和30年代
工学部 化学応用工学科	学外実習	3年	10	11	21	8 (6)	8 (7)	14 (13)	平成19年 8月~ 9月	4~ 7日間	選択 1単位	平成14年度
工学部 電気電子工学科	インターンシップ	3年	7	29	36	5 (5)	16 (6)	21 (10)	平成19年 8月~ 9月	5~10日間	選択 1単位	平成14年度
工学部 知能情報工学科	情報工学実地演習	3年	0	0	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)			選択 1単位	平成14年度
工学部 生物工学科	学外インターンシップ	3年	18	24	42	7 (7)	11 (11)	18 (18)	平成19年 8月のみ	5~ 7日間	選択 1単位	平成14年度
工学部 光応用工学科	学外実習	3年	38	40	78	14 (14)	16 (15)	30 (29)	平成19年 8月~10月	5~12日間	選択 1単位	平成14年度
合 計			104	210	314	50 (50)	127 (102)	177 (152)				

注) ()は四国内の事業所数で内数

平成18年度合計	93	187	280	48 (48)	125 (66)	173 (134)						
平成17年度合計	103	160	263	65 (51)	92 (59)	147 (110)						

大学院共通科目一覽表

人間・自然環境研究科	心理学研究法特論	
	言語環境概論	
	人間環境基礎論	
	地域文化環境論	
	地域社会環境論	
	社会環境基礎論	
	国際環境基礎論	
	生活環境論	
	自然環境概論	
	地域社会基礎論	
先端技術科学教育部	○ 博士前期課程	
	総合科目	知的財産論
		ニュービジネス特論
		技術経営特論
		長期インターンシップ
		ビジネスモデル特論
		プレゼンテーション技法(M)
		企業行政演習(M)
		課題探求法(M)
	専攻内共通科目群	応用流体力学特論
		振動工学特論
		破壊・構造力学特論
		材料物性特論
		プロジェクトマネジメント
		化学環境工学特論
		生物環境工学特論
		環境システム工学特論
		複雑系システム工学特論
		電磁環境特論
	e-ビジネス特論	
	○ 博士後期課程	
	総合科目	人間工学
		生命工学
		社会科学
		科学技術論
		ニュービジネス特論
		知的財産論
		プレゼンテーション技法(D)
		企業行政演習(D)
課題探求法(D)		
○ 人間・自然環境研究科との互換科目		
生物環境自然科学		
分子細胞環境論		
国際環境基礎論		
数理科学基礎論 I		
数理科学基礎論 II		
情報システム特論		
医科学教育部 栄養生命科学教育部 薬科学教育部 口腔科学教育部 保健科学教育部	○ 全専攻系共通カリキュラム科目	
	生命倫理入門	
	臨床心理学	
	社会医学・疫学・医学統計入門	
	英語論文作成入門	
	○ 各専攻系間の共通カリキュラム科目	
	ヒューマンサイエンス(形態と機能学)	
	臨床薬理学入門	
	微生物・免疫学入門実習	
	臨床医科学入門	
プロテオミクス概論		
ゲノム創薬特論		
ビタミン・栄養		
健康食品・漢方		

成績評価基準の公表

前期・【教養科目群】・《自然と技術》

【受講者へのメッセージ】 講義ノートを準備する。

【コンテンツエリア】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/DAV/lecture/151924/>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 中山(1N02, 0886567236, nakayama@ias.tokushima-u.ac.jp) 在席時いつでも質問可。

自然と技術 (Science and Technology)

第四紀の自然環境

Quaternary Natural Environment

西山 賢一(総合科学部・講師)

2単位 前期月1・2

【授業の目的】 地球環境問題が重要視されて久しいが、その科学的理解のためには、地質時代という「第四紀」における自然環境の変遷史を理解しておく必要がある。この講義では、現在および第四紀(約170万年前以降)に地球上で生じた種々の地学的現象を解説するとともに、自然と人間とのよりよいつきあいを考えていく。

【授業の概要】 地球環境を特徴づける種々の地学的現象(気候変動、海水準変動、地震、火山、水循環、土壌)について学ぶとともに、日本の平野や山地のなりたちについて理解する。また、地球環境問題と自然災害についても理解を深める。

【キーワード】 環境地学、地球科学、地球環境、第四紀、自然環境

【到達目標】 地球環境を特徴づける地学現象を理解し、地球環境問題の基礎知識を身につける。

【授業の計画】 1. 地球環境の特徴 2. 過去を知るテクニック:年代測定法 3. 気候変動とは何か? 4. 海水準変動とは何か? 5. 地震のしくみ 6. 火山のしくみ 7. 天気の変化 8. 地球上をめぐる水 9. 地下水の特徴 10. 土壌の形成 11. 日本の平野はどうやってできたか? 12. 日本の山地はどうやってできたか? 13. 地球環境問題について考える 14. 自然災害とその予測 15. 試験 16. 総括授業

【教科書】 教科書指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】 参考書:「百年・千年・万年後の日本の自然と人類」古今書院、「新版 自然環境の生い立ち」朝倉書店、「環境と地質(全5巻、日本語)」古今書院

【成績評価の方法】 期末試験と出席状況(小テスト)を総合的に判断して評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 パワーポイントやビデオなどを使うことがあります。遅刻・欠席をしないこと、積極的にノートをとること。

【WEB 頁】 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/tigaku/index.htm>

【コンテンツエリア】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/DAV/lecture/151925/>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 西山(総科3号館2S05, 088-656-7239, nisiyama@ias.tokushima-u.ac.jp) 月曜日 12~13時

自然と技術 (Science and Technology)

科学技術と人間

Technology and Man

石田 三千雄(総合科学部・教授)

2単位 前期月1・2

【授業の目的】 科学技術は、今日の社会の基盤を形成し、われわれの生活になくてはならないものとなっている。しかし科学技術は自然や人間に対して破壊的な力を行使し、環境問題を始めとして多くの問題を引き起こしている。われわれは科学技術の人間学的・社会的基盤を踏まえた上で、科学や技術の研究基盤、科学者・技術者の責任、市民の関与の仕方などを論じ、科学技術を適切に行使する社会のあり方、人間の生き方を明らかにする。

【授業の概要】 科学技術が人間本性に根ざし、近代合理性の大きな柱をなし、近代社会を形成してきたことをまず哲学的・思想的に明らかにしたうえで、現代の科学技術の倫理に関わる諸問題を考察する。科学倫理や技術倫理、科学者・技術者の責任、技術の文明論的考察、生命操作技術の倫理や生命倫理学の倫理性、科学技術と公共性、市民の関与、技術倫理の課題、技術倫理教育の現状などを論じる。

【キーワード】 科学技術、倫理、技術倫理、責任

【先行科目】 「人間と生命/知の探求と現代」(1.0, ⇒25頁)

【関連科目】 「人間と生命/生命倫理学研究」(0.5, ⇒144頁)

【到達目標】 科学技術の思想的および社会的背景を理解でき、科学技術が現代社会の中で実際にどのように行使され、またどのような役割を果たしているかを自ら考えることができる。

【授業の計画】 1.はじめに一授業全体の説明 2.科学技術の基盤 3.科学倫理とは何か 4.技術倫理とは何か 5.人間と技術 6.現代文明と技術 7.現代社会の歴史的な位置づけ 8.現代科学技術の特徴 9.生命倫理学の倫理性 10.科学的認識の倫理性 11.科学技術者と市民 12.科学技術と合意形成 13.技術倫理が問われる現場 14.技術倫理教育の現状と課題 15.終わりに一授業のまとめ 16.総括授業

【教科書】 石田三千雄他『科学技術と倫理』ナカニシヤ出版、2007年、1995円

【参考書】 授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法】 学期末試験、レポート、授業への取組状況などを総合的に評価する。

【再試験の有無】 再試験有り

【コンテンツエリア】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/DAV/lecture/151947/>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 石田(2328, 088-656-7147, mishida@ias.tokushima-u.ac.jp) 水曜日 13時~14時

【備考】 授業計画は一部変更があるかもしれません。

自然と技術 (Science and Technology)

地球の科学

The Earth and Environmental History

石山 裕祐(総合科学部・教授)

2単位 前期月3・4

【授業の目的】 日本列島というきわめて活動的な地盤に生活する私たちにあって、グローバルな視点から固体地球の物理的な性質と、それに起因する自然環境の変化を理解することは、大切な課題です。現在の固体地球の姿を理解し、地層や化石の記録から、地球誕生以来の地球表面~生物圏のできごとを明らかにする事例を学びながら、プレート運動などによる地球環境の変遷の結果、私たちヒトが、「現在の地球に存続する」ことへの理解を深めることを目的とします。

【授業の概要】 講義の前半は、固体地球の姿とプレート運動論の成り立ちを学び、後半は地球と生命の歴史を学びます。

【キーワード】 地球の形と大きさ、地球の物理的性質、地球の歴史、化石と生物の進化

【到達目標】 固体地球の物理的性質やプレート運動、地層と化石から地球の歴史や環境変化を学ぶ方法の基本が理解できる。

【授業の計画】 1.幾何測地と物理測地:光学的な測地と重力ポテンシャルを考慮した手法の紹介、地球楕円体と楕円体説:地球はどれほど球に近いのか、なぜ楕円体と考えるのか? 2.ジオイド:平均海面と一致する等ポテンシャル面が地球楕円体と実地形との中間項、アイソスタシー:ヒマラヤの引力の影響から地殻とマンテルのバランス概念は生まれた。3.重力からみた地球:地球の引力と遠心力の合力である重力、標準重力は地球楕円体上の理論値の概念、重力異常とその意味:重力値の測定と補正、標準重力値との比較の意味。4.地磁気の原因と古地磁気からわかること:地磁気の性質と変化、その原因、地磁気の逆転、大洋底の磁気帯、磁極の移動と大陸の移動。5.地球内部の温度の推定:漸熱圧縮を熱源とした場合の地球内部の温度分布の見積り。6.地震波と地球の内部構造:地球内部を伝わるP波・S波の速度、P波の影の存在、地殻の分布:地理的分布と深度分布、相違-ベニオフ帯とプレート境界。7.大陸移動説からプレートテクトニクスへ:ウェゲナーの大陸移動説とその後。8.地球の年齢を測る:地球の年齢の推定、最古の岩石や隕石からわかること。9.大衝突から始まる固体地球と大気・海洋の生い立ち:隕石衝突による地球生成からランゲルによる大気・水圏の環境変化。10.化石の定義:化石から何がわかるか、地質時代と生物界の変遷:動物の進化によって順次立てられた地質時代の区分。11.初期の大型動物群の誕生の謎と進化の試行錯誤:エディアカラ動物群とパーフェクト動物群。12.セキツイ動物の出現から上陸へ:セキツイ動物の出現と進化、大海からの離脱まで。13.地質時代の環境変化と生物の絶滅:漸新世時代の節目の大規模絶滅の環境要因は? 14.プレートテクトニクスと環境変化:気候や海水準の変化が海陸の分布や生物進化に与えた影響。15.ヒトへの道のり:なぜ私たちヒト・サピエンスが今ここに存在するのか? 16.総括授業(授業評価含む)

【教科書】 教科書は特に指定しない。

【参考書】 「地球大進化46億年・人類への旅」全6巻、NHKプロジェクト編、2004年、S.スタンレー著「生物と大絶滅」、東京化学同人、1991年、平野弘道「繰り返す大絶滅」岩波書店、1994年、参考書:丸山茂徳「46億年地球は何をしてきたか?」岩波書店、1994年

【成績評価の方法】 出席状況(10%)、学期末レポート(50%)と授業内容の小レポート提出(40%)により総合的に評価する。

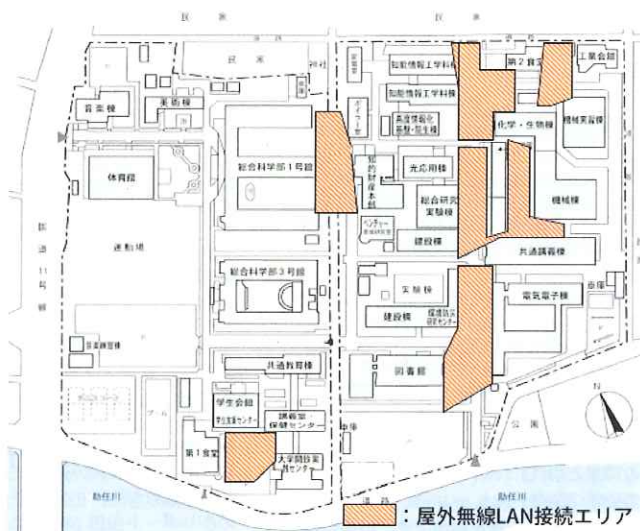
【再試験の有無】 授業への積極的な取り組みの見られる受講生には、行うことがある。

徳島大学 無線ネットワーク サービス提供エリア

徳島大学無線ネットワークトップページ			
本認証基盤による無線LAN接続サービス提供が確認されている基地局のリスト			
常三島 キャンパス	工学部	共通講義棟	2~6階中央リフレッシュエリア 4~6階西側エレベータホール 3階西側自習室 創成学習スタジオ 6階全会議室 (教職員のみ利用可, SSID: MeetingRoom)
		知能情報工学科棟	C10教室 C20教室
		機械工学科棟	M203教室 M204教室 M310会議室
		工業会館	2階
	総合科学部	3号館	スタジオ (1階~3階)
	高度情報化基盤センター	高度情報化基盤センター棟	1階会議室
	大学開放実践センター	大学開放実践センター棟 (共通教育D棟)	3階 授業研究インテリジェントラボ
	付属図書館	本館	2階
	屋外	工業会館前 共通講義棟前 建設工学科棟前 知能情報工学科C棟前 産学官連携プラザ前 大学開放実践センター前	 下部に拡大図を表示
	蔵本 キャンパス	医学部	臨床講義棟
保健工学科棟			5階 501講義室, 502講義室, 503講義室, 504講義室, 形態系実習室 4階 大講義室, 401講義室, 402講義室 3階 301講義室, 302講義室, 看護教官実習室 2階 電気系実習室, 203講義室 1階 玄関ホール, 第1会議室, 第2会議室, 101講義室
基礎学実験研究A棟			
歯学部			歯学部棟
薬学部		薬学部棟	2階 スタジオ 1階 スタジオプラザ
付属図書館		分館	自由閲覧室
共通講義棟			1階, 2階

本認証基盤を利用する無線LAN基地局を設置された場合には <wlan-supportait.tokushima-u.ac.jp> まで御一報ください、確認が取れ次第リストに追加いたします。

Copyright(C) 2005-2006 Tokushima Univ. All Rights Reserved., Last Update 2006/04/04



創成学習開発センター 活動状況一覧

平成16年度	1. 創成学習開発センターの設立
	2. 4部会の活動 (1)企画・設計部会 安全講習会・機器講習会, 企画プロジェクト募集 (2)実現・実施部会 機器の管理および維持, 学生の自主創造性実習に対する相談と指導, プレゼンテーションに関する相談と指導 (3)評価・改善部会 プロジェクト報告会, プレゼンテーション評価の実施 (4)公開・連携部会 活動のWEB発信, 小中校生向けイベント, 他大学との連携(JGN II を活用した遠隔発信)
	3. 学生プロジェクト活動支援
	4. 県下企業ニーズを教材とする取り組み
	5. 韓国海洋大学との創造性教育の連携構築
平成17年度	1. 4部会の活動 (1)企画・設計部会 安全講習会, 機器講習会, 全学共通教育「創成学習」科目の企画・開設, プロジェクトの企画・募集, 講演会・研究会等の企画・開催 (2)実現・実施部会 プロジェクト審査会, プロジェクト中間報告会 (3)評価・改善部会 全学共通教育「創成学習」の教育効果評価 (4)公開・連携部会 活動WEB発信, 年次活動報告書・パンフレット類の作成・配布, 学会等における成果発信, 小中校生向けイベントおよび学外イベントとの連携, 他大学との連携(JGN II を活用した遠隔発信)
	2. 学生プロジェクト活動支援
	3. 韓国海洋大学校教育革新センターとの教育研究交流
平成18年度	1. 4部会の活動 (1)企画・設計部会 安全講習会・機器講習会, 企画プロジェクト募集全学共通教育「創成学習」科目の企画・開設, プロジェクトの企画・募集, 講演会の企画・開催 (2)実現・実施部会 プロジェクト審査会, プロジェクト中間報告会 (3)評価・改善部会 全学共通教育「創成学習」の教育効果評価, ギガビットネットワーク(JGN II)活用の評価 (4)公開・連携部会 編集委員会の設置, 学内向け月刊誌の発行, 年次活動報告書・パンフレット類の作成・配布, 学会等における成果発信, 小中校生向けイベントおよび連携, 他大学との連携(JGN II)
	2. 学生プロジェクト活動支援
	3. 韓国海洋大学校教育革新センターとの教育研究交流
	4. 他大学への視察
平成19年度	1. 4部会の活動 (1)企画・運営部会 安全講習会・機器講習会, プロジェクトの企画・募集, 講演会の企画・開催, プロジェクトマネジメント研修会, アマチュア無線の公開運用, あすたむらんど徳島における「ファミリーサイエンス教室」, 徳島大学パイロット事業(地場産業の現場課題に基づく大学・産業界連携の教育プログラムの構築) (2)実現・実施部会 平成18年度プロジェクト活動最終報告会, 平成19年度プロジェクト活動審査会, 平成19年度プロジェクト中間報告会 (3)評価・改善部会 平成18年度プロジェクト活動最終報告会の評価, 平成19年度プロジェクト活動最終報告会の評価, 遠隔通信による講演会アンケート, 創成学習開発センターの活動に関する評価と改善 (4)公開・連携部会 活動のWEB発信, 学内向け月刊誌の発行(編集委員会), リーダー会議の設立, 年次活動報告書・パンフレット類の作成・配布, 学会等における成果発信, 小中校生向けイベント, 他大学との連携(JGN II)
	2. 学生プロジェクト活動支援
	3. 韓国海洋大学校教育革新センターとの教育研究交流

平成 19 年度 全学 F D 徳島大学教育カンファレンス プログラム

9:00~ 9:30	<p>< 大学開放実践センター1階玄関前 > 受付</p>		
9:30~ 9:35	<p>< 第1講義室 > 司会: 岩田敏二 学長挨拶 岩野敏博</p>		
9:00~ 9:30	<p>行徳講義 A 座長: 伊賀弘起 < 第1講義室 > A① 9:45~10:10 大学院ヘルス・イノベーション研究部 医療教育開発センター 寺嶋吉保 他 ■ヒューマン・コミュニケーション 研究における保育所実習の効果 エッセイ・イノベーション教育の視 点から</p>	<p>行徳講義 B 座長: 石田三千雄 < 第2講義室 > B① 9:45~10:10 総合科学部 齊藤隆仁 他 ■高校履修アンケート・復習 テストから高大接続を考へ る</p>	<p>行徳講義 C 座長: 宮田政徳 < 1階ロビー > 10:45~11:45 大学院ヘルス・イノベーション研究部 医療 教育開発センター 小野香代子 他 P① ■ヒューマン・コミュニケーション 研究における保育所実習の効果 エッセイ①-学生の実習前後のアンケ ート、成長報告書の分析から 大学院人間・自然環境研究科臨床 心理学専攻 岡本愛 他 P② ●ヒューマン・コミュニケーション 研究における保育所実習の効果 エッセイ②-実習開始前と実習終了後 のエコグラムの分析から 総合科学部 山本真由美 他 P③ ●ヒューマン・コミュニケーション 研究における保育所実習の効果 エッセイ③-テキストマトマイニング分析 から 大学院ヘルス・イノベーション研究部 医療 教育開発センター 長宗雅美 他 P④ ●ヒューマン・コミュニケーション 研究における保育所実習の効果 エッセイ④-保護者、保育士のアンケ ート分析から 全学共通教育センター・総合科学部 荒木秀夫 他 P⑤ ●全学共通教育センターにおける 「新カリキュラム」による教育 の現状と課題 全学共通教育センター 山内隆彦 他 P⑥ ●平成 19 年度英語統一試験 (TOEIC-IP テキスト) 結果の分析 と考察</p>
9:45~ 11:45	<p>A② 10:15~10:40 総合科学部 渡部隆 他 ■高大連携事業「サイエンス・ パートナーシップ・プロジェクト」 実施報告</p>	<p>B② 10:15~10:40 総合科学部 菊池淳 他 ■化学教育の高大接続に関す る現状と問題点~知識と知 恵~</p>	<p>B③ 10:45~11:10 総合科学部 大橋真 他 ■全学共通教育共創型学習科 目における社会人活用の展 開</p>
9:45~ 11:45	<p>A③ 10:45~11:10 工学部 田村隆雄 他 ■平成 19 年度建設工学科新入 生合宿研修の達成度評価一 研修後に実施した 2 回のア ンケート調査から</p>	<p>B④ 11:15~11:40 総合科学部 齊藤隆仁 他 ■全学共通教育における OMS/Moodle の活用報告</p>	<p>A④ 11:15~11:40 徳島大学病院 総合歯科診療部 大石英佳 他 ■歯学部学生委員会が取り組 んだ高年次学生の合宿研修 によるキャリア形成支援に ついて</p>

13:00~ 14:30	<p>特別講演 司会: 寺嶋吉保 < 第1講義室 > 講師: 君島浩先生 アルー株式会社 インストラクショナルデザイナー担当プロフェッショナル 演題: 「大学教育をデザインする~企業人の発想~」</p>		
14:45~ 16:10	<p>行徳講義 C 座長: 大河津 < 第1講義室 > C① 14:45~15:10 歯学部 伊賀弘起 他 ■歯科医療系学生の口腔保 健・福祉体験実習による健康 長寿支援</p>	<p>行徳講義 D 座長: 前府保彦 < 第2講義室 > D① 14:45~15:10 高度情報化基盤センター 金西許英 他 ■徳島大学における e-Learning 実践を通して</p>	<p>行徳講義 E 座長: 神崎貞昭 < 1階ロビー > 14:45~15:45 大学開放実践センター 宮田政徳 他 P⑦ ●全学共通教育における GPA, GPC の導入とその活用について 全学共通教育センター・総合科学部 井戸慶治 他 P⑧ ●全学共通教育「新カリキュラム」 の効果を検証する高年次調査 策学部 菊石美也子 他 P⑨ ●学部横断型チーム医療教育入門 医・薬・看護合同ワークショップ 総合科学部 齊藤隆仁 P⑩ ●スキヤナーによる課題提出支援 の試行 全学共通教育センター 桑折徳彦 他 P⑪ ●e コンテンツ開発の現状とコー ス管理システム Moodle 全学共通教育センター 佐野勝徳 他 P⑫ ●徳島大学全学共通教育センター の取組について~新カリキュラ ム導入後を中心に~</p>
16:20~ 17:35	<p>特別講演 司会: 金西許英 < 第1講義室 > 講師: 小松川浩先生 千歳科学技術大学 光科学部 演題: 「理工系初年次教育を中心とした eラー ニングの取組 理工系知識共有による FDへの展開」</p>	<p>D② 15:15~15:40 全学共通教育センター 松谷満 他 ■全学共通教育における「学 生による授業評価」の現状 と課題</p>	<p>D③ 15:45~16:10 大学院先端技術科学教育部 国際連携教育開発センター 勅使河原三保子 他 ■英語による大学院レベル工 学系授業の質向上を目指し て一授業受講支援の実施状 況とアンケート調査結果</p>

平成 19 年度 放射線業務従事者の教育訓練実施状況

コース名		実施回数	受講者数
再教育訓練	RI	8	436
	X線	6	129
	RI・X線	2	5
再教育訓練 計		16	570
再教育訓練 (実習)	実習	4	34
再教育訓練 (実習) 計		4	34
再教育訓練 (診療)	診療	7	288
再教育訓練 (診療) 計		7	288
新規教育 (講義)	RI	15	238
	X線	5	98
	一時立入者	1	32
新規教育 (講義) 計		21	368
新規教育 (実習)	実習	11	123
新規教育 (実習) 計		11	123
診療用教育訓練		16	55
診療用教育訓練 計		16	55
総計		75	1,438

はじめに	
第1章 現代の学生像と教職員の役割	
1-1 学生支援の必要性と教職員の役割	1
1-2 学生相談から見える現代の学生像	2
1-3 学生に関わる時の教職員の基本的な心構え	5
第2章 学生の修学のための時期ごとのチェックポイント	
学生時代の「悩み」	9
2-1 入学期	9
2-1-① 学業について	10
2-1-② 学生生活について	12
2-2 中間学年	12
2-2-① 学業について	14
2-2-② 学生生活について	16
2-3 最終学年	16
2-3-① 学業について	18
2-3-② 学生生活について	20
2-4 大学院	20
2-4-① 学業について	22
2-4-② 学生生活について	24
第3章 学生の様々な行動と対応のポイント	
3-Q1 授業中、寝てばかりいる	29
3-Q2 学生集団の中の孤立	29
3-Q3 リストカット・通呼吸	30
3-Q4 大声を出して暴れる	31
3-Q5 ひきこもり	32
3-Q6 発達障害	33
3-Q7 自殺	34
3-Q8 交通事故	35
3-Q9 退学者・休学者	35
第4章 キャンパス・ハラスメントと学生と関わる時のポイント	
4-1 セクシュアル・ハラスメント	41
4-2 アカデミック・ハラスメント	43
第5章 学生相談室の役割と活用法 Q & A	
5-Q1 どんな相談を受けていますか?	47
5-Q2 学生相談室のスタッフは?	47
5-Q3 利用状況は?	48
5-Q4 カウンセリングって何ですか?	50
5-Q5 教職員も利用できますか?	50
5-Q6 卒業生や保護者も利用できますか?	50
5-Q7 相談以外の活動は?	50
第6章 学内・学外機関の紹介	
6-1 学内連絡先リスト	53
6-2 学外連絡先リスト	58
執筆者一覧	59
おわりに	60

19年度 学生相談室来室者

平成19年4月1日～平成20年3月31日

学部等	性別	来室者数	実数	相談内容									相談対応等					
				修学・履修	進路・就職	経済的	人間関係	精神面	健康面	その他			カウンセラー	相談員	精神科医紹介	メール・手紙相談	電話相談	分室利用
										人権	悪質商法	その他						
総合科学部	男性	153	20	17	26	2	45	57	0	0	0	6	137	1	2	0	0	14
	女性	352	52	36	54	1	58	179	0	0	0	24	269	7	7	7	4	0
医学部	男性	67	17	30	2	4	19	3	0	7	1	1	55	12	0	0	4	21
	女性	31	12	0	16	0	2	7	0	2	0	4	22	2	0	0	4	9
歯学部	男性	18	3	0	2	0	0	5	0	1	0	10	17	0	1	0	0	12
	女性	35	8	0	0	0	20	7	0	5	0	3	28	3	0	0	0	10
薬学部	男性	73	7	25	1	0	29	16	0	0	0	2	66	2	2	0	3	19
	女性	31	5	0	7	0	19	5	0	0	0	0	30	0	0	1	0	7
工学部	男性	552	104	55	88	0	92	273	3	7	7	27	442	23	11	5	6	0
	女性	80	13	5	0	0	28	40	0	0	0	7	63	1	2	0	0	0
計	男性	863	151	127	119	6	185	354	3	15	8	46	717	38	16	5	13	66
	女性	529	90	41	77	1	127	238	0	7	0	38	412	13	9	8	8	26
合計		1392	241	168	196	7	312	592	3	22	8	84	1129	51	25	13	21	92
その他(学部不明)	男性	26	16	4	1	0	0	0	1	0	1	19	1	0	0	1	8	1
	女性	4	4	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
その他(保護者)	男性	33	12	0	0	0	0	0	0	0	0	33	6	0	0	0	14	0
	女性	100	44	0	0	0	0	0	0	0	0	100	14	2	0	3	63	0
その他(教職員)	男性	206	61	0	0	0	0	0	0	0	0	206	37	11	1	4	89	0
	女性	17	4	0	0	0	0	0	0	0	0	17	3	0	0	1	7	0
その他(卒業生等)	男性	5	4	0	2	0	0	0	0	0	1	2	2	0	0	0	1	0
	女性	11	5	2	0	0	1	0	0	0	0	8	5	3	0	0	1	1
計		402	150	8	3	0	1	0	1	0	2	387	68	16	1	9	183	2
総計		1794	391	176	199	7	313	592	4	22	10	471	1197	67	26	22	204	94

19年度 学生相談室・職員相談室行事

月	対象者	行事	内容	参加人数・発行部数
4	学生	学生相談室だより発行	学生相談室の利用案内及び活動内容を周知	4000部
	教職員	教職員のための「学生支援」の手引きQ&Aを配布	手引きの発行を通して、教職員に学生支援の啓蒙及び啓蒙を行った	1136部
	新入生	新入生(工学部)オリエンテーション	工学部において学科ごとに新入生を対象にオリエンテーション(学生時代の悩み・学生相談室の紹介)を行った(的場専任教員)	535名
	新入生	歯学部大学入門講座	学生時代の悩みというテーマで入門講座を行った(的場専任教員)	56名
	学生・保護者	徳大広報「とくtalk」2007年春号掲載	学生相談室を紹介	
	学内	大学院ほか 村インス研究部講義「生命倫理入門」で講義	「キャンパスハラスメントを通して『医療従事者の倫理』を考える」を実施(北村室長)	107名
学生	「ほっと」の会	グループでコラージュを制作した	11名	
5	学生	五月祭・「心に気づく会」	五月祭において心理テストを行い、自分自身をよく知ってもらい、学生相談を身近に感じてもらう(常三島キャンパス)	156名
	相談員・カウンセラー	学生相談室・職員相談室合同会議	18年度の活動報告や19年度の行事計画について検討しあった	44名
6	学生	「ほっと」の会	アサーションについて学んだ	12名
	相談員・カウンセラー	勉強会	各部署・学部ごとに相談に対する心得、対応について勉強会(ロールプレイ等含む)を行った	39名
7	学生	「ほっと」の会	絵本の読み聞かせを体験した	9名
	教職員	総合科学部における学生支援の手引きの紹介	総合科学部教授会において「学生支援」の手引きQ&Aについて紹介を行った(的場専任教員)	100名
	学部学生	学生に対するアンケートの実施	相談室のサービス内容の改善に資する資料を得ることにより学生の実態に則した支援を検討するため、アンケート調査を行った	613名
8	学生	「ほっと」の会	自分にとって大切なものというテーマでグループワークをした	9名
	教職員	保健管理センターとの情報交換会	保健管理センター、学生相談室との情報・事例交換会	12名
	学生	エンタナー・グループ	学生たちの心理的成長や社会性の獲得といった自己確立への援助を目的としたグループ活動を行った	延べ27名(実数9名)
9	カウンセラー他	学生相談室カウンセラー事例検討会	学生相談室の事例をもとにカウンセラー等が意見交換	9名
	教職員	学生支援担当教職員研究会	学生支援担当教職員研究会において「学生支援」の手引きQ&Aについて講演を行った(的場専任教員)	54名
	教職員	人権に関する講演会	成城大学法学部教授奥山明良氏による講演(演題-「大学・教育におけるセクハラ・ハラスメントの問題・その防止」)＜常三島・蔵本	72名
	専任教員	日本心理臨床学会第26回大会	的場専任教員出席	1名
	学外	大阪府専修学校各種学校連合会人権教育推進協議会	第5回人権教育研修会「徳島大学における人権擁護体制について」講演(北村室長)	40名
	学生	「ほっと」の会	自己開示をテーマにエクササイズを行った	10名
10	学生	「ほっと」の会	「楽しもう! フォーカシング」というテーマで学んだ	13名
	学生・保護者	徳大広報「とくtalk」2007年秋号掲載	学生相談室を紹介	
	学外	平成19年度中国・四国地区国立大学法人保長研修	「大学における人権問題」講演(北村室長)	50名
専任教員	第4回四国地区セクハラ・ハラスメント防止研修リーダー養成コース	岡田専任教員出席	1名	
11	学生	大学祭・「心に気づく会」	大学祭において心理テストおよびストレス対処行動の調査を行い、自分自身をよく知ってもらい、学生相談室を身近に感じてもらう(常三島・蔵本キャンパス)	212名
	専任教員他	中国・四国地区メンタルヘルズ研究協議会	的場専任教員、上原法律アドバイザー、川上カウンセラー出席	3名
	専任教員他	第45回全国学生相談研修会	多田分室長、的場専任教員、岡田専任教員出席	3名
	専任教員	平成19年度 セクハラ防止対応と相談実践セミナー	岡田専任教員出席	1名
12	学生	「ほっと」の会	色をテーマにしたエクササイズで学んだ	10名
	学生	「ほっと」の会	粘土を使用してオリジナルな作品を創作した	11名
	学外	森ノ宮医療大学教職員研修会	「大学における人権問題とその防止」講演(北村室長)	40名
	学内	報告書(「大学生のストレス対処行動と支援対策の検討」)	「大学生のストレス対処行動と支援対策の検討」の報告書を作成し、提出した	
1	インテーカー	学生相談インテーカーセミナー	インテーカー出席	1名
	学生	「ほっと」の会	手作り絵はがきをメンバー同士送り合った	11名
2	学生・教員	総合科学部地域システムコースFD	FDの一環として講師を務める(的場専任教員)	12名
	教職員	人権に関する講演会	徳島県男女共同参画アドバイザー 山野明美氏による講演(演題-「男女共同参画社会におけるセクハラ・ハラスメント」)＜常三島・蔵本	74名
	教職員	保健管理センターとの情報交換会	保健管理センター、学生相談室との情報・事例交換会	11名
3	専任教員他	第53回四国公衆衛生学会	「大学生のストレス対処行動と支援対策の検討(平成19年度徳島大学学長裁量経費教育研究等支援事業)」における調査結果を学会において発表(多田分室長、的場専任教員、岡田専任教員)	3名
	学生	「ほっと」の会	手作りかるたを作成し、一緒にかるた遊びを楽しんだ	8名
3	学生	「ほっと」の会	卒業や1年の節目を記念してコラージュ作成、メッセージカード作成、合唱をした	14名
	教職員	平成20年度大学入門講座・オリエンテーション説明会	大学入門講座・オリエンテーション説明会で教員を対象に悪質商法及びカルト問題についてのガイダンスを行った(西川法律アドバイザー)	33名
カウンセラー他	学生相談室カウンセラー事例検討会	学生相談室の事例をもとにカウンセラー等が意見交換	9名	

メンタルヘルスケア及びハラスメント等に関する講演会実施状況

開催月日		演 題	参加者数
平成16年度	17年3月7日	徳島大学人権問題に関する講演会 「アカデミックハラスメントのない大学に」	132名
平成17年度	17年4月5日	徳島大学初任者研修「職員相談室について」	11名
	17年10月28日	大学職員のメンタルヘルスケアのあり方	156名
	17年11月4日	大学職員のメンタルヘルスケアのあり方	129名
	18年3月14日	徳島大学人権問題に関する講演会 「セクシュアルハラスメントを考える 一加害者にならないために、組織管理の観点から」	80名
平成18年度	18年4月5日	徳島大学初任者研修「職員相談室について」	10名
	18年9月20日	徳島大学人権問題に関する講演会 「アカデミック・ハラスメントを考える」	81名
	18年10月3日	大学教職員のためのメンタルヘルス	161名
	18年10月16日	大学教職員のためのメンタルヘルス	111名
	19年3月15日	徳島大学人権問題に関する講演会 「心に問題のある人への対応の仕方」	62名
平成19年度	19年4月12日	徳島大学初任者研修「職員相談室について」	22名
	19年7月12日	総合科学部教授会にて10分程度「学生支援」の手引きQ&Aについて講演	100名
	19年9月10日	平成19年度学生支援担当職員研究会 テーマ1「学生支援」の手引きについて	54名
	19年9月19日	徳島大学人権問題に関する講演会 「大学教育におけるセクシュアルハラスメントの問題・その防止」	72名
	19年10月29日	ストレスとの共生	150名
	20年1月24日	総合科学部地域システムコースFDプログラム出張授業	12名
	20年2月27日	徳島大学人権問題に関する講演会 「男女共同参画社会におけるセクシュアルハラスメント」	74名

平成19年度 体育系サークルリーダー研修会実施日程表

【1日目】

12月8日(土)	9:30	10:00	11:30	12:00	13:00	14:30	15:00	17:00	17:20	19:00	20:00	22:00	
	集合・受付	工学部正門前・出発	借上バスにて移動	到着・入所式	荷物整理	昼食	プログラム1 ① 自己紹介 ② オリエンテーション 【特別第3研修室】 ③ レクリエーション ・バレーボール 【体育館】	休憩	プログラム2 講演・実技 【リコンデিশニング グ〜マッサージ・スト レッチ中心に】 吉田講師 【特別第3研修室】	休憩	終了後夕食 のつどい参加	入浴	交流会 【特別第3研修室】
	消灯・就寝												

【2日目】

12月9日(日)	6:30	7:10	9:00	11:00	11:20	12:00	13:30	14:30	14:45	15:45	16:00	18:00	
	起床・清掃	終了後朝食 のつどい参加	プログラム3 講演 【年間トレーニング計画のたて方】 【筋力トレーニングについて】 佐竹講師 【特別第3研修室】	昼食	プログラム4 班別討議 【リーダーの役割】 【特別第3研修室】	プログラム5 全体討議 【リーダーの養成】 【特別第3研修室】	清掃・荷物整理	退所式・記念撮影	借上バスで移動	到着・解散	工学部正門前		

1 理念・目標

目次

1	理念・目標	1
2	全学共通教育及び学部専門教育に関する原則	2
3	大学院教育に関する原則	2
4	教育体制、学生支援及び学生の位置付けに関する原則	3
5	研究に関する原則	3
6	社会貢献及び情報開示に関する原則	4
7	学長	4
8	副学長及び学長補佐	5
9	部局	6
10	各種機構及び全学各種委員会	6
11	教員組織	7
12	教員以外の職員組織	8
13	人事制度	8
14	定員管理	9
15	目標・評価	9
16	財務	10
17	施設	10

- 1-1-1** ● 国立大学法人徳島大学は、自主と自律の精神に基づき、真理の探究と知の創造に努め、卓越した学術及び文化を継承し、世界に開かれた大学として、豊かで健全な未来社会の実現に貢献する。
- 1-2** ● 本学は、明日を指す学生の多様な個性を尊重して、人間性に富む人格の形成を促す教育を行い、優れた専門的能力と、自立して未来社会の諸問題に立ち向かう進取の気風を身につけた人材の育成に努める。
- 1-3** ● 本学は、根元的な真理を探究する研究と社会的要請の強い課題を解決する研究を通して、国際社会で高く評価される成果を生み出すとともに、学問分野の固定的概念にとらわれない自由な発想により、互いに協力して新しい領域を切り開き高度化することによって、学術研究の総合的な発展に努める。
- 1-4** ● 本学は、地域社会と世界を結ぶ知的ネットワークの拠点として、平和で文化的な国際社会を構築するために貢献し、産学官の組織と連携し、社会の発展基盤を支える教育、研究及び文化の拠点として諸機能の充実強化に努めるとともに、大学の開放と生涯学習支援を通して地域社会の向上発展に貢献する。

序 文

徳島大学長 青野 敏博

平成12年3月、本学は「徳島大学の21世紀に向けての戦略」を策定し、21世紀に向けて取り組むべき本学の理念・目標・計画を明らかにしました。この中で、1) 有為の人材の育成(教育)、2) 知の継承と創造(研究)、3) 地域に生き世界へ伸びる(社会貢献)、の3項目が本学の重要な使命であることが明確に示されました。理念を実行に移す目標としては、1) 学生の意欲の喚起と教官の意識の変革、2) 科学文化の進歩・発展を先導する教育・研究の柔構造化と制度の柔軟な運用、3) 社会に開かれた大学、4) 大学運営機構の活性化が謳われ、さらに各部局が取り組むべき中期的な目標・計画が示されました。

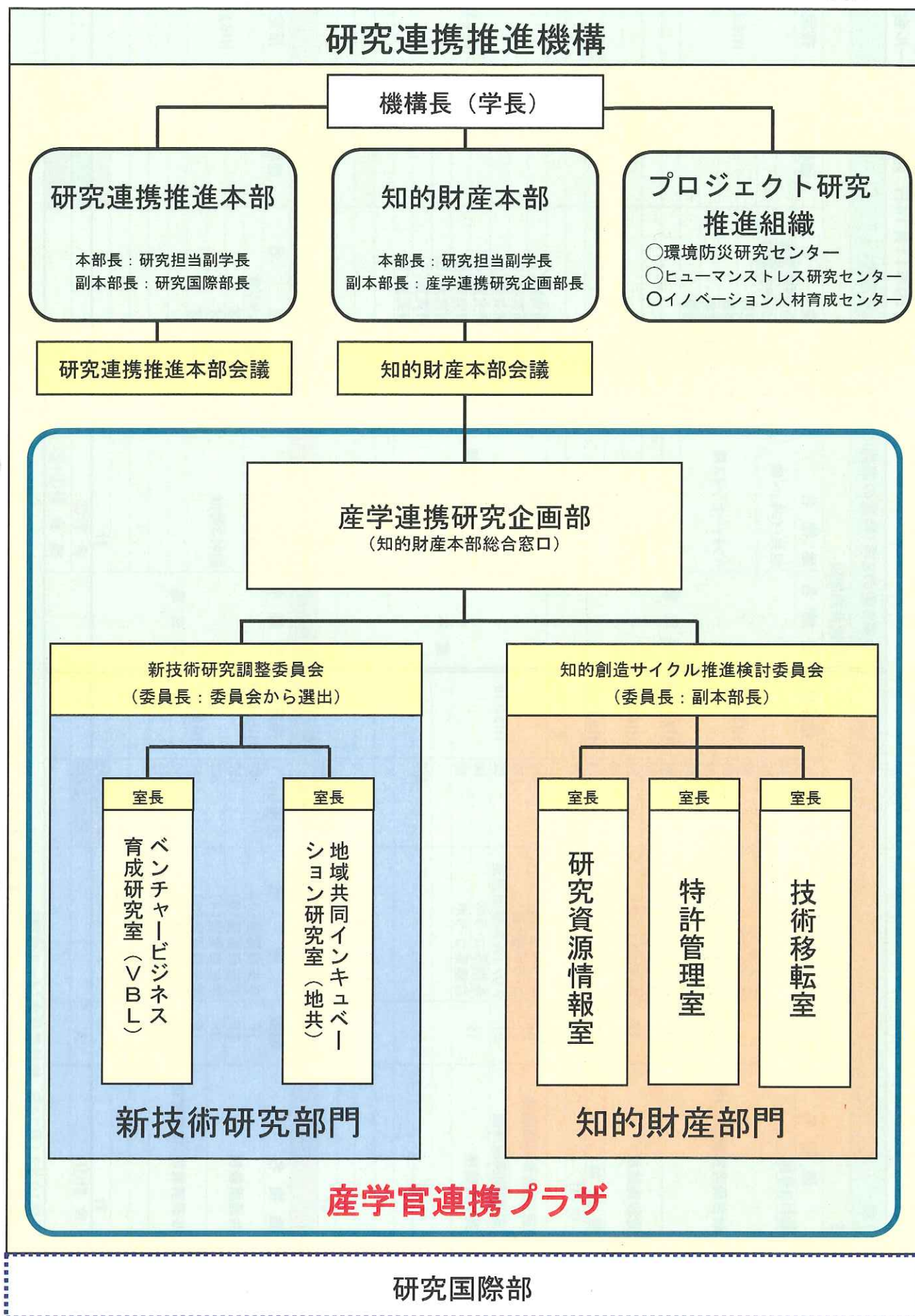
この戦略は、本学が様々な改革を進める上で精神的基盤となりましたが、平成16年4月に国立大学が法人化されることが決定されたことにより、自主・自律の観点から徳島大学の新しい構想をうち立てる必要が生じました。法人発足にあわせて制定された「徳島大学基本構想」は、国立大学法人徳島大学の「憲法」となるべきものであり、その冒頭に掲げられている理念・目標は、「徳島大学憲章」とも言うべきものです。さらにこの基本構想では、学長・副学長等の職務、部局、機構、委員会、教育組織、人事制度、施設等の基本的なあり方について述べ、本学の理念に沿って目標を達成するための基本構想を示しています。

本学は平成16年4月に中期目標と中期計画を全学の意見を結集して主体的に作成し、文部科学省に提出しました。このうち中期目標については、上記の「徳島大学基本構想」に基づいて作成されました。一方、中期計画は、教育、研究、社会貢献、管理運営などについて平成16年4月より6年間の重点計画を述べたものですが、ページ数や書式に制約があり、本学の重点計画に取り組むための指針としたり、本学の姿勢を社会に示す観点からは、十分にその意図を伝えることが出来たかどうかという点に若干の問題がありました。そこで本学では中期計画を補完する意味で、それを作成する際に背景となった基本的な考え方や、具体的な計画の概要を記述した「徳島大学第一期基本計画」を策定することとしました。

この基本計画は、総論、教育・学生支援、研究、社会貢献、知的財産、施設・設備の6章からなりますが、特筆すべき点としては、1)「進取の気風」を持つ学生教育の精神を盛り込んだ「徳島大学教育ルネッサンス・プログラム」の策定(第2章)、2)「健康生命科学」、「社会技術科学」、「地域創生総合科学」の重点推進研究3領域の設定(第3章)、3)「人・物・心・体の総合支援」のための地域貢献に関する10分野の設定(第4章)、などが挙げられます。さらに、本学の知的財産ポリシーの基となる考え方(第5章)や、施設・設備を充実するための基本的な考え方(第6章)を示しています。

法人発足の第一期においては、中期計画およびこの基本計画に沿って人的・物的な資源を重点的に配分し、本学の総合的な発展を図ることになりますが、それと同時にこの基本計画は、社会に対して本学の取り組みをご理解いただき、またご批判を仰ぐことにより説明責任を果たす上でも役立つと思われる。明治以来の改革と言われる国立大学法人化を意義あるものとし、本学の画期的な発展を図るため、本学の全ての構成員、さらには社会の皆様のご理解とご協力を切に願うものであります。

最後に、この基本計画の立案に携わった全ての教職員に敬意を表して序とします。



◇『徳島大学における施設の管理運営に関する規則』による共用施設

平成19年11月14日 施設委員会(メール会議)

◇第5条の1項							◇第5条の2項(特定の部局に管理運営を委ねる施設)							
研究共用施設							研究共用施設							
団地名	建物名	階数	室名	面積(m ²)	指定日		団地名	建物名	階数	室名	面積(m ²)	指定日		
常三島	総科3号館	3F	コ・ラボ	76			常三島	地共・インキエホ棟	2F	プロジェクト研究室等	573			
			コ・ラボ(1)	68		3F				プロジェクト研究室等	403			
			コ・ラボ(2)	68	H15.3.18	1F				実験室等	122			
		コ・ラボ(3)	68		2F	実験室等			213	H16.2.20				
		コ・ラボ(4)	136		3F	実験室等			193					
	コ・ラボ(5)	68		4F	実験室等	213								
	コ・ラボ(6)	95	H19.11.14											
	建設実験棟	1F	コ・ラボ(1-1)	25										
			コ・ラボ(1-2)	24	H16.3.24									
	機械棟	6F	コ・ラボ(1-3)	69										
小計		コ・ラボ	74	H19.11.14										
			771											
蔵本	(医)栄養学科実験棟	2F	コ・ラボ室(西)	112			蔵本	ゲノム機能研究棟	2F	チーム研究室(1)	65			
			コ・ラボ室(東)	112		3F				チーム研究室(2)	65			
		(医)動物実験施設	2F	プロジェクト実験研究室	82	H15.3.18			4F	チーム研究室(3)	65			
		薬学実験棟	1F	生物系コ・ラボ	80				1F	チーム研究室(4)	40			
				有機系コ・ラボ	70				1F	チーム研究室(5)	41			
	小計			456		2F		チーム研究室(6)	49					
						3F		チーム研究室(7)	49					
						4F		チーム研究室(8)	49					
計				1,227										
教育共用施設							教育共用施設							
団地名	建物名	階数	室名	面積(m ²)	指定日		団地名	建物名	階数	室名	面積(m ²)	指定日		
常三島	共通講義棟	1F	学生自習室(1)	107	H18.10.31		常三島	共通講義棟	6F	創成スタジオ	422			
		2F	学生自習室(3)	152		1F			スタジオ	325	H16.2.20			
		3F	学生自習室(4)	207		2F			スタジオ	123				
	共通講義棟(旧精密棟)	1F	学生自習室(5)	141	H16.2.20			共通講義棟	3F	スタジオ	123			
		2F	学生自習室(6)	212										
		3F	学生自習室(7)	212										
計				1,031										
合計①				2,258			合計②				993			
							合計①+②				3,133			
							総合計①+②				5,391			

平成19年11月14日 施設委員会(メール会議)
 電気電子工学科棟2階コ・ラボ(170m²)→総合研究実験棟5階機械共同プロジェクト研究室(1)(95m²)及び
 機械棟6F 学応工学ゼミナール室(74m²)に変更

徳島大学の施設使用料に関するガイドライン

1220302

平成17年9月8日
学長敍定

(考え方)

1 学内の研究施設を有効活用し、学内外の研究連携を活性化するために、利用者を含む定化・特定化することなく弾力的・流動的に利用できる「共同利用スペース」を、学内研究組織の特性に応じて創出することは、施設利用の効率化や適切な競争を促す観点から有意義である。

(注) 「共同利用スペース」は、施設管理責任者が使用料を徴収する施設の総称として、このガイドラインで便宜上用いる名称であり、規則等に定義された各称ではない。従って、この中には、部局が創出した余剰スペースや、このガイドライン6に規定する施設利用責任者が当該部局外の研究者である「研究共用施設」が含まれる。

2 「共同利用スペース」の主たる創出目的は、各部局等の管理する施設の有効活用を図るために当該組織における余剰スペースの創出を促し、かつ、学際的・総合的分野の研究連携のためにスペースを利用しようとする研究者に、施設利用の責任と使命感を醸成し、もって部局の研究環境の整備と本学の研究発展に寄与することにある。

3 以上の目的を達成するために、「共同利用スペース」にかかる費用は基本的に受益者負担とする。

4 部局の施設管理責任者が「共同利用スペース」を創出し、部局外の研究者に有料で施設を提供しようとする場合は、次の例に倣って部局等規則を整備する。

例 ○○施設及び設備の利用に係る経費は、別に定めるところにより利用者の負担とする。ただし、○○長が特に必要と認めるときは、その一部又は全部を免除することができる。

5 前項の部局等規則及び「別に定める」基準等は、このガイドラインに述べる趣旨に合致したものでなければならぬ。単に部局等の予算増加を図ることのみを目的として「共同利用スペース」を創出し、有料貸付を行うことは、本ガイドラインの趣旨に合致しない。

(運用方法)

6 このガイドラインは、「徳島大学における施設の管理運営に関する規則」に定める施設管理責任者が、当該部局外の研究者等に有料で施設を貸与しようとする場合に適用する。なお、同規則に定める「研究共用施設」の施設利用責任者が当該部局外の研究者である場合にもこのガイドラインを適用する。

7 「共同利用スペース」の使用料は、1㎡あたり月間、実験系1000円、非実験系500円を上限とする。

8 実験系・非実験系の区分の決定は当該施設管理責任者が行う。区分の決定に疑義がある場合は修正又は当該施設管理責任者において区分し難い場合は、研究連携

推進本部が検討した後、学長が行う。

9 使用料の徴収方法、貸与条件、及び貸与期間等は、施設管理責任者が部局基準等で定める。ただし、すでに別に定める規則等がある場合を除く。

10 使用料は、施設利用責任者の予算を所管する部局等から当該施設管理責任者の所属する部局等に移し替えるものとする。ただし、研究連携推進本部の上申により学長が使用料の一部又は全部を全学的目的に使用することが適当であることを決定した場合は、その一部又は全部を施設利用責任者の予算を所管する部局等から学長裁量経費に移し替える。

11 既納の使用料は還付しない。ただし、天災その他利用者の責めに帰すことができないう事由により使用できないときは、この限りではない。

12 光熱水料の受益者負担は、使用料とは別に各施設の算出方法により算出して徴収することができる。

13 当該施設の廊下・エレベーター・便所等、貸与施設以外の清掃費・夜間警備費・光熱水料等は、当該施設が負担する。

14 使用料及び光熱水料の支払いができる主な経費は、次のとおりである。

- ① 運営費交付金
- ② 授業料収入
- ③ 入学科・検定料収入
- ④ 附属病院収入
- ⑤ 寄附金収入
- ⑥ 産学連携等研究収入 (ただし、契約等により、支払いが認められている場合は、)

⑦ 各種補助金及び助成金等 (ただし、関係規程等により、支払いが認められている場合に限る。)

15 学外企業等に対する研究施設の貸付等は、国立大学法人徳島大学固定資産管理規則等で取扱うため、このガイドラインから除く。

学部間の連携・融合研究事例(平成16～19年度)

「②中期目標1220100」(重点目標として掲げる学際的研究や異分野間の協力・融合を必要とする全学的研究)に係る研究

年度	連携部署		研究テーマ	研究概要
平成16年度	総合科学部	ソシオテクノサイエンス研究部	小型刺毒魚ハオコゼの毒棘タンパク質の精製	小型刺毒魚ハオコゼの毒棘タンパク質の精製
"	総合科学部	ソシオテクノサイエンス研究部	医学教育のエスノメソドロジー—医療面接実習とOSCEの相互行為的基礎—(文部省科研費)	医学教育のエスノメソドロジー—医療面接実習とOSCEの相互行為的基礎—(文部省科研費)
"	総合科学部	ソシオテクノサイエンス研究部	ボランティア・市民活動立ち上げ支援事業	ボランティア・市民活動立ち上げ支援事業
"	医学部	薬学部 ゲノム機能研究センター	(パイロット研究)食品由来の非酵素的な一酸化窒素(NO)産生制御による新しい生活習慣病予防法の開発と創薬	野菜・果物の摂取と少量の薬物の組み合わせで、非酵素的なNOの産生を制御する全く新しい発想に基づく生活習慣病予防法を開発し、野菜の嫌いな人にも予防が実践できる創薬をおこなう
"	歯学部	工学部	マイオスタチンに対するRNA干渉法による骨格筋形成の調節	骨格筋形成の抑制遺伝子であるマイオスタチンを標的遺伝子としたRNAiがマウス筋芽細胞の増殖および分化に及ぼす影響の解析と個体レベルでの骨格筋量調節への有効性について検討する。
"	工学部	医学部 医学部・歯学部附属病院	情報技術(IT)による医療情報ソリューション研究班 (高音声認識による医療情報自動入力分類管理支援研究)	工学部青江研究室で進められている意味優先型の言語理解技術を放射線科の大規模所見データベースの知的検索技術に応用した医療情報の効率的な管理システムの実用化研究を医学部研究者と連携して進めるものである。 <研究内容> ・医療所見からの診断知識獲得 ・言語理解解析用の医療、掘らぎ知識辞書構築 ・医療情報検索に特化したマルチモーダル・インタフェース技術の調査
"	工学部	ヘルスバイオサイエンス研究部	協調的仮想空間を利用した症例別インプラントの設計と製造法に関する研究	症例別に求められる適切なインプラント形状を設計し製造するための技術として、協調的仮想空間を利用した症例別インプラントの設計手法についての提案である。また、設計データに基づいてセラミック製材料を用いた製造法についても提案する。
"	分子酵素学研究センター	ヘルスバイオサイエンス研究部(医学部)	新規アポトーシス制御因子の構造と機能に関する研究	新たに発見したストレス誘導性細胞死制御因子の細胞内情報伝達機構を形態情報医学分野との学際的研究により明らかにした。
"	分子酵素学研究センター	医学部(ヘルスバイオサイエンス研究部)	骨芽細胞のプロテオミクスによる生理活性因子の探索	医学部で研究を進めている骨芽細胞の分化による骨粗しょう症研究の一環としてプロテオミクスによる分化の機序、生理活性因子の探索を進めている
"	分子酵素学研究センター	分子酵素学研究センター	胸腺臓質上皮細胞成熟シグナルの解析	免疫系の自己寛容を確立する胸腺臓質上皮細胞の機能成熟機構を解析し、細胞内リン酸化酵素NF- κ B-inducing kinaseが関与することを見出した(松本教授主導の研究)
"	分子酵素学研究センター	ヘルスバイオサイエンス研究部	胸腺細胞移動を担う分子機構の解析	免疫系の自己寛容確立に胸腺細胞の皮質から髄質への移動が関与する可能性について解析した
平成17年度	総合科学部	ソシオテクノサイエンス研究部	多点体表面電位測定法による新心電計の開発とその臨床応用	多点体表面電位測定法による新心電計の開発とその臨床応用
"	総合科学部	ソシオテクノサイエンス研究部	小型刺毒魚ハオコゼの毒棘タンパク質の精製	小型刺毒魚ハオコゼの毒棘タンパク質の精製
"	総合科学部	ソシオテクノサイエンス研究部	医学教育のエスノメソドロジー—医療面接実習とOSCEの相互行為的基礎—(文部省科研費)	医学教育のエスノメソドロジー—医療面接実習とOSCEの相互行為的基礎—(文部省科研費)
"	総合科学部	ソシオテクノサイエンス研究部	ボランティア・市民活動立ち上げ支援事業	ボランティア・市民活動立ち上げ支援事業
"	歯学部	医学部(ヘルスバイオサイエンス研究部) 生体情報内科学)	破骨細胞と樹状細胞の分化振りわけの調節機構について	同一の前駆細胞より分化する破骨細胞と樹状細胞の分化振りわけの調節機構を解明し、骨破壊性疾患に対する新規の治療法を構築する。
"	歯学部	医学部 分子酵素学研究センター ゲノム機能研究センター 工学部	ヒト脂肪細胞を用いた肥満に影響を及ぼす関連因子の解明とその応用	膵島ホルモン合成制御など インスリン抵抗性など 微小血管障害 脂肪採取、データベース構築 プロテオミクス解析 mRNA発現 脂肪細胞の分化・増殖因子など
"	薬学部	医学部・歯学部附属病院薬剤部	新制度(6年制)薬剤師養成教育における病院実務実習に関する研究	新制度下での病院実務実習は、薬学教育モデルコアカリキュラムに準拠し従来より内容を充実させながら、長期かつ多人数、また徳島大学として個性ある学生教育を実現しなければならぬ。そのための効率的で効果的な教育方法開発とテキストなど教材開発を行う。
"	ゲノム機能研究センター	分子酵素学研究センター	胸腺臓質上皮細胞成熟シグナルの解析	自己寛容を確立する胸腺臓質上皮細胞の機能成熟にAIREが関与することを見出した(松本教授主導の研究)
"	ゲノム機能研究センター	ヘルスバイオサイエンス研究部	胸腺細胞移動を担う分子機構の解析	免疫系の自己寛容確立に胸腺細胞の皮質から髄質への移動が関与する可能性について解析した
平成18年度	総合科学部	ソシオテクノサイエンス研究部	多点体表面電位測定法による新心電計の開発とその臨床応用	多点体表面電位測定法による新心電計の開発とその臨床応用
"	総合科学部	ソシオテクノサイエンス研究部	ウニおよび魚の刺毒タンパク質の構造解析	ウニおよび魚の刺毒タンパク質の構造解析
"	総合科学部(環境防災センター兼任)	総合科学部 ソシオテクノサイエンス研究部	陸域から海域への環境負荷量と沿岸生態系に関する調査研究	陸域から海域への環境負荷量と沿岸生態系に関する調査研究
"	総合科学部	ヘルスバイオサイエンス研究部	高等教育改革のコミュニケーション分析—現場における文化変容の物的検討—(文科省科研費)	高等教育改革のコミュニケーション分析—現場における文化変容の物的検討—(文科省科研費)
"	総合科学部	ヘルスバイオサイエンス研究部	医療訴訟ゼロを目指す病院内システムの構築とその地域社会への普及に向けた予備的調査(徳島大学学長裁量経費)	医療訴訟ゼロを目指す病院内システムの構築とその地域社会への普及に向けた予備的調査(徳島大学学長裁量経費)
"	総合科学部	総合科学部 埋蔵文化財調査室 ソシオテクノサイエンス研究部(工学部)との共同研究)	国史後「守護町勝瑞城館」を核とした藍住町まちづくり支援プログラム(総合科学部・埋蔵文化財調査室・ソシオテクノサイエンス研究部(工学部)との共同研究)	国史後「守護町勝瑞城館」を核とした藍住町まちづくり支援プログラム(総合科学部・埋蔵文化財調査室・ソシオテクノサイエンス研究部(工学部)との共同研究)

	歯学部	大学院ソシオテクノサイエンス研究部 先進物質材料部門 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 生体情報薬科学部門	希少資源リンの高度化利用に向けた新規リン戦略に関する研究	希少資源リンの高度化利用に向けた新規リン戦略に関する研究
	工学部	ヘルスバイオサイエンス研究部	アフリカ・アジア発展途上国住民の栄養状態と血清中微量元素濃度の相関解析に関する国際調査	アフリカ・アジア発展途上国住民の栄養状態と血清中微量元素濃度の相関解析を行った。
	工学部	薬学部 歯学部	希少資源リンの高度化利用に向けた新規リン戦略に関する研究	希少資源リンを多角的に見直すための新規探索法(薬)、回収再生法(工)、新規リン材料の開発(工業)を行う。
	工学部	アイソトープ総合センター	酸化チタンナノカプセルに被包したメチルビオロゲンの光触媒特性	メチルビオロゲンを酸化チタンナノカプセル中に固定して調製し、光照射により生成するメチルビオロゲンラジカルについて検討した
	工学部	ヘルスバイオサイエンス研究部	患者中心医療に向けた口腔インプラント手術支援システムに関する研究	口腔インプラント治療においては各々の患者の症例に合わせた手術計画と、その計画に基づいた歯科手術が求められる。本研究ではそうした要求に応えるための技術として、仮想空間におけるデジタル技術と実空間における機械技術を組み合わせた手術支援システムの開発を行う。
	工学部	医学部	低酸素細胞放射線増感剤の開発	新規低酸素細胞放射線増感剤の分子設計及び合成を工学部で行い、それらの放射線増感活性を医学部にて行う。
	分子酵素学研究センター	ヘルスバイオサイエンス研究部(医学部)	新規アポトーシス制御因子の病態生理学的意義	神経細胞死制御における新規アポトーシス制御因子の役割を神経情報医学分野との連携研究により明らかにした。
	分子酵素学研究センター	ヘルスバイオサイエンス研究部(薬学部)	D-アミノ酸代謝システムの病態生理学的意義	抗精神病薬によるD-アミノ酸代謝システムを構成する酵素の活性阻害の解析を医薬資源科学領域との連携研究により行った。
	ゲノム機能研究センター	ヘルスバイオサイエンス研究部	血管リモデリングの分子機構の解明	血管平滑筋細胞のアンジオテンシンIIのインスリンシグナル制御を明らかにした。 血管リモデリングにおけるT細胞のHIF-1の関与を解析した。
	ゲノム機能研究センター	ヘルスバイオサイエンス研究部	胸腺細胞移動を担う分子機構の解析	免疫系の自己寛容確立に胸腺細胞の皮質から髓質への移動が関与する可能性について解析し、CCR7とそのリガンドを介したケモカインシグナルの関与を明らかにした。
	ゲノム機能研究センター	ヘルスバイオサイエンス研究部 医学部・歯学部附属病院	重症筋無力症等ヒト免疫疾患と胸腺機能の関連	重症筋無力症など胸腺との関連が示唆されているヒト免疫疾患における胸腺機能について解析した
	アイソトープ総合センター	ソシオテクノサイエンス研究部	酸化チタンナノカプセルに被包したメチルビオロゲンの光触媒特性	メチルビオロゲンを酸化チタンナノカプセル中に固定して調製し、光照射により生成するメチルビオロゲンラジカルについて検討した
平成19年度	医学部	工学部 医学部	消化器癌における術前センチネルリンパ節検出システムの開発	コンピュータを用いてdiffusion MRIや造影CT画像を解析し、手術標本の結果と照合することで、術前にリンパ節転移を診断するシステムを工学部応用光学科と共同で行う。
	医学部	薬科学教育部分子創薬化学	新規標識化合物であるICG誘導体の合成開発研究	微小がんの分子イメージングを目的として感度・特異性に優れた標識化合物を作成する。標識化合物の作成を薬科学で行い、タンパクとの標識ならびにイメージング評価を当科が担う。
	医学部	ソシオテクノサイエンス研究部	電子インビュダンスによる生体モグラフィーの開発	電子インビュダンス法による生体マッピングにより乳癌スクリーニング法を開発する
	工学部	ヘルスバイオサイエンス研究部	エイズ・結核等感染症患者血清中微量元素の動態解析	エイズ・結核等感染症患者の血清中微量元素の動態解析を行った。
	工学部	総合科学部	大気中浮遊粒子の化学的的特性評価	大気中浮遊粒子の化学的的特性評価法の開発を実施した。
	工学部	アイソトープ総合センター	酸化チタンナノカプセルに被包したフルオレセインの光化学的安定性	ナノサイズの酸化チタンカプセルを調製し、蛍光分子であるフルオレセインを内部に固定して光化学的安定性を検討した。
	工学部	医学部	腫瘍移植細胞を用いた新規放射線増感剤の開発	工学部で開発した次世代動物実験モデルである腫瘍移植細胞を用いて医学部で放射線増感活性を評価する。
	疾患酵素学研究センター	ヘルスバイオサイエンス研究部	血管リモデリングの分子機構の解明	血管平滑筋細胞のPDGFによる遊走分子機構を解析した。 低酸素欠症による肺性高血圧症発症の分子機構解明
	疾患酵素学研究センター	ソシオテクノサイエンス研究部	生体内低酸素領域の可視化技術の開発	生体内の生体内還元能力に触媒される薬剤とその検出技術の開発
	ゲノム機能研究センター	ヘルスバイオサイエンス研究部	胸腺細胞移動の自己寛容成立における役割	自己寛容に必須の制御性T細胞生成に胸腺細胞の皮質から髓質への移動が果たす役割を明らかにする
	ゲノム機能研究センター	ヘルスバイオサイエンス研究部	新生児期胸腺摘出の免疫発生における意義	心臓手術に際して必要となることのある新生児期胸腺摘出が免疫系発生におよぼす影響を解析した
	ゲノム機能研究センター	ヘルスバイオサイエンス研究部 医学部	重症筋無力症等ヒト免疫疾患と胸腺機能の関連	重症筋無力症など胸腺との関連が示唆されているヒト免疫疾患における胸腺機能について解析した
	アイソトープ総合センター	ソシオテクノサイエンス研究部	酸化チタンナノカプセルに被包したフルオレセインの光化学的安定性	ナノサイズの酸化チタンカプセルを調製し、蛍光分子であるフルオレセインを内部に固定して光化学的安定性を検討した。
	アイソトープ総合センター	総合科学部	ナノリカ粒子を用いた放射性同位元素安全使用のための基礎的研究	放射性同位元素をナノサイズのシリカ粒子中に固定して、着色や飛散の減少、液洗脱分離などを試み安全使用について検討した。
	アイソトープ総合センター	総合科学部	モデルルームを用いた放射性同位元素標識化合物の飛散率・飛散分布測定	モデルルームを作成し、その室内でのトリチウム標識化合物の飛散率と飛散分布について購入からの経過時間との関係を明らかにした。
	アイソトープ総合センター	医学部保健学科	MRIを用いるモモ果肉障害選別方法の開発	医療用MRIを用いて、近年モモ果実中に頻発する果肉障害を非破壊的に選別する方法を開発する。
	アイソトープ総合センター	医学部保健学科	医療用PETサイクロトロンの中性子漏洩管理	医療用加速器(PETサイクロトロン)の恒常的な安全管理を目的として漏洩中性子線の測定法を開発する。
	アイソトープ総合センター	総合科学部	がん治療用密封線源における定量イメージング法の改良	がん治療用密封線源(シード)の放射能を画像化する技術を高機能化する。

■:分野名変更, ■:新設

部 門	講 座	分 野	変 更 前	
医療創生科学部門	先端医療創生科学講座	呼吸器膠原病内科学 (医学系)	分子制御内科学	
		腫瘍内科学(寄附講座) (医学系)		
		泌尿器科学 (医学系)		
		生体防御医学 (医学系)		
	分子口腔医学講座	口腔分子病態学 (歯学系)		
		口腔疾患制御外科学 (歯学系)	口腔腫瘍制御学	
	臨床薬学講座	臨床薬物動態学 (薬学系)		
		医薬品情報学 (薬学系)		
		医薬品機能解析学 (薬学系)		
		臨床薬剤学 (医学系)	薬剤部	
	食品栄養設計学講座	食品機能学 (医学系)		
	社会環境衛生学講座	予防医学 (医学系)		
		小児歯科学 (歯学系)	小児口腔健康科学	
		衛生薬学 (薬学系)		
		実践栄養学 (医学系)	国際公衆栄養学	
地域医療学(受託講座) (医学系)				
	医療情報学講座 (医学系)	医療情報部		
発達予防医歯学部門	発生発達医学講座	機能解剖学 (医学系)		
		小児医学 (医学系)		
	健康長寿歯科学講座	産科婦人科学 (医学系)	女性医学	
		分子医化学 (歯学系)		
		口腔微生物学 (歯学系)	口腔感染症学	
		歯科保存学 (歯学系)		
	病態予防医学講座	総合診療歯科学 (歯学系)	総合歯科診療部	
		生理機能学 (医学系)	分子細胞生理学	
	神経情報医学部門	情報統合医学講座	消化器内科学 (医学系)	臓器病態治療医学
			顕微解剖学 (医学系)	形態情報医学
統合生理学 (医学系)				
精神医学 (医学系)				
病態情報医学講座		脳神経外科学 (医学系)		
		薬理学 (医学系)	情報伝達薬理学	
		麻酔・疼痛治療医学 (医学系)	侵襲病態制御医学	
		腎臓内科学 (医学系)	病態情報診断学	
感覚情報医学講座		救急集中治療医学 (医学系)		
		眼科学 (医学系)	視覚病態学	
		耳鼻咽喉科学 (医学系)		
再生修復医歯学部門		顎口腔病態制御学講座	臨床神経科学 (医学系)	神経情報医学
			歯周歯内治療学 (歯学系)	
			歯科放射線学 (歯学系)	口腔顎顔面放射線医学
		顎口腔再建医学講座	歯科麻酔科学 (歯学系)	口腔侵襲制御学
	口腔顎顔面形態学 (歯学系)			
	生体材料工学 (歯学系)			
	口腔顎顔面補綴学 (歯学系)			
	口腔顎顔面外科学 (歯学系)			
	器官病態修復医学講座	口腔顎顔面矯正学 (歯学系)		
		人体病理学 (医学系)		
		消化器・移植外科学 (医学系)	臓器病態外科学	
	生体防御腫瘍医学講座	心臓血管外科学 (医学系)	循環機能制御外科学	
		循環器内科学 (医学系)		
		環境病理学 (医学系)		
		放射線科学 (医学系)	病態放射線医学	
胸部・内分泌・腫瘍外科学 (医学系)		病態制御外科学		
感覚運動系病態医学講座		法医学 (医学系)		
プロテオミクス医科学部門	生体制御医学講座	皮膚科学 (医学系)		
		運動機能外科学 (医学系)		
		形成外科学 (医学系)		
		分子細菌学 (医学系)		
		ウイルス病原学 (医学系)		
		人類遺伝学 (医学系)	分子予防医学	
		生体情報内科学 (医学系)		
		分子病態学 (医学系)		
		ストレス制御医学 (医学系)		
		生体システム栄養科学部門	摂食機能制御学講座	口腔組織学 (歯学系)
口腔分子生理学 (歯学系)				
分子薬理学 (歯学系)				
予防歯学 (歯学系)				
咬合管理学 (歯学系)				
栄養医科学講座	分子栄養学 (医学系)			
	生体栄養学 (医学系)			
	予防環境栄養学 (医学系)			
医療栄養科学講座	臨床栄養学 (医学系)			
	代謝栄養学 (医学系)			
創薬資源科学部門	機能分子創製学講座	分子創薬化学 (薬学系)		
		機能分子合成薬学 (薬学系)		
		精密薬品製造学 (薬学系)		
	医薬資源科学講座	有機合成薬学 (薬学系)	天然分子構築薬学	
		海洋資源薬学 (薬学系)		
	資源分子探索学講座	創薬生命工学 (薬学系)		
生体情報薬科学部門	薬物情報解析学講座	生薬学 (薬学系)	天然医薬品学	
		分子薬物学 (薬学系)		
		薬物治療解析学 (薬学系)		
		薬物動態制御学 (薬学系)		
	分子情報薬学講座	病態神経薬学 (薬学系)		
		製剤設計薬学 (薬学系)		
		創薬理論化学 (薬学系)		
		製薬分析科学 (薬学系)		

保健科学部門	看護学講座	看護技術学	(保健系)	保健学科
		看護教育学	(保健系)	
		看護管理学	(保健系)	
		療養回復ケア看護学	(保健系)	
		ストレス緩和ケア看護学	(保健系)	
		臨床腫瘍医療学	(保健系)	
		子どもの保健・看護学	(保健系)	
		生殖補助医療学	(保健系)	
		女性の健康支援看護学	(保健系)	
		メンタルヘルス支援学	(保健系)	
		地域看護学	(保健系)	
		学校保健学	(保健系)	
		助産学	(保健系)	
		医用情報科学講座	放射線理工学	
	医用電子情報システム学		(保健系)	
	医用画像情報科学		(保健系)	
	医用画像機器工学		(保健系)	
	医用放射線技術科学		(保健系)	
	画像情報医学		(保健系)	
	放射線治療技術科学		(保健系)	
	放射線治療技術科学		(保健系)	
	医用検査学講座	生体機能解析学	(保健系)	保健学科
		微生物・遺伝子解析学	(保健系)	
		病理解析学	(保健系)	
		細胞・免疫解析学	(保健系)	
	口腔保健学講座	口腔保健基礎学	(歯学系)	口腔保健学科
		口腔保健衛生学	(歯学系)	
		口腔保健教育学	(歯学系)	
		口腔保健支援学	(歯学系)	
		口腔機能福祉学	(歯学系)	
		口腔保健福祉学	(歯学系)	

徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部 組織

部 門	大 講 座
情報ソリューション部門	情報システム工学大講座
	計算機システム工学大講座
	知識情報処理大講座
	感性情報処理大講座
	情報数理学大講座
先進物質材料部門	機能性材料大講座
	知的材料システム大講座
	材料加工システム大講座
	量子物質科学大講座
エコシステムデザイン部門	資源環境デザイン工学大講座
	社会環境システム工学大講座
	社会基盤システム工学大講座
	流域圏マネジメント工学大講座
	社会マネジメント工学大講座
ライフシステム部門	物質変換化学大講座
	物質機能化学大講座
	生命システム工学大講座
	生命情報工学大講座
	生命機能工学大講座
エネルギーシステム部門	エネルギー変換工学大講座
	エネルギー応用工学大講座
	エネルギー制御工学大講座

◆ 学長裁量ポスト採用者一覧 ◆ (平成19年度)

H20.3.1

部局名等		講座又はプロジェクト名	採択職種	採用日	任期満了日	
公 募 分	1	歯学部	歯学部における新しい卒前臨床実習システムの確立	助教	17.4.1	20.3.31
	2	薬学部	臨床薬学実務教育講座	助教	19.4.1	20.3.31
	3	工学部	徳島大学教育・研究者情報データベースにおける登録情報充実のための登録情報作成プログラム及び汎用情報抽出プログラム開発プロジェクト	助教	17.4.1	20.3.31
	4	工学部 (創成学習開発センター 19.3.31 廃止)	「進取の気風」を育む創造性教育	講師	16.11.1	19.10.31
	5	医学部・歯学部 附属病院	医学部・歯学部附属病院の管理・運営体制の再構築	助教	19.4.1	20.3.31
	6	徳島大学学生 支援センター	学生支援センター・学生相談室	助教	17.4.1	20.3.31
	7	埋蔵文化財 調査室	埋蔵文化財調査室 (埋蔵文化財調査プロジェクト)	助教	19.4.1	22.3.31
	8	事務局総務部	徳島大学職員相談室	助教	19.5.1	22.4.30
	9	工学部	u-Learningおよびu-Campus推進 プロジェクト	助教	19.7.1	22.6.30
	10	HBS研究部	医療教育開発センター(医療教育開発センターにおける業務の継続的発展)	准教授	19.6.1	22.5.31
	11	総合科学部	高大接続授業を含む理系基礎教育充実プロジェクト	助教	19.10.1	22.9.30
	12	医学部	器官病態修復医学講座・循環器内科学分野(設置予定)	助教	19.6.1	20.4予定
	13	医学部	ストレスのイノベーション研究プロジェクト	講師	19.7.1	22.6.30
	14	工学部	先端技術科学教育部 長期インターンシップ委員会 派遣型高度人材協働育成プロジェクト	助教	19.4.1	20.1予定
	15	工学部	複数学位を与える国際連携大学院教育の創設	助教	20.3.1	23.2.28
	16	医学部・歯学部 附属病院	心臓血管外科	助教	19.7.1	22.6.30
	17	大学開放実践 センター	徳島大学FD推進プロジェクト	助教	19.10.1	22.9.30
	18	疾患酵素学研究 センター	酵素タンパク質結晶解析室	助教	19.10.1	22.9.30
	19	全学共通教育 センター	英語及び情報教育の充実プロジェクト	助教	19.10.1	20.4予定
	20	アイソトープ 総合センター	アイソトープ総合センター	講師	20.3.1	23.2.28
固 定 分	21	研究連携推進機構	知的財産本部	助教 又は 講師	18.4.1	在任期間中 は任期無し
	22	大学開放実践 センター	大学開放実践センター	教授	13.10.1	
	23	〃	〃	准教授	13.10.1	
	24	埋蔵文化財 調査室	埋蔵文化財調査室	准教授	14.4.1	
	25	〃	〃	助教	8.8.1	
合 計		25件				

競争的資金を活用した任期付き教員等リスト (H20.2.1現在)

NO.	職員名称	所属	係・講座
1	COE研究員	ゲノム機能研究センター	遺伝子実験施設
2	COE研究員	大学院ヘルスバ イサイエンス研究部	生体制御医学講座(生態情報内科学)
3	COE研究員	大学院ヘルスバ イサイエンス研究部	医療栄養科学講座(代謝栄養学)
4	COE研究員	ゲノム機能研究センター	分子機能解析分野
5	COE研究員	疾患酵素学研究センター	シグナル伝達と糖尿病研究部門
6	COE研究員	大学院ヘルスバ イサイエンス研究部	先端医療創生科学講座(分子制御内科学)
7	COE研究員	大学院ヘルスバ イサイエンス研究部	感覚情報医学(神経情報医学)
8	COE研究員	ゲノム機能研究センター	遺伝情報分野
9	COE研究員	大学院ヘルスバ イサイエンス研究部	分子情報薬学講座(創薬理論化学)
10	COE研究員	ゲノム機能研究センター	蛋白情報分野
11	COE研究員	疾患酵素学研究センター	応用酵素・疾患代謝研究部門
12	COE研究員	大学院ヘルスバ イサイエンス研究部	栄養医科学講座(分子栄養学)
13	COE研究員	大学院ヘルスバ イサイエンス研究部	食品栄養設計学講座(食品機能学)
14	COE研究員	大学院ヘルスバ イサイエンス研究部	感覚情報医学講座(神経情報医学)
15	COE研究員	大学院ヘルスバ イサイエンス研究部	医療栄養科学講座(代謝栄養学)
16	COE研究員	ゲノム機能研究センター	分子機能解析分野
17	COE研究員	大学院ヘルスバ イサイエンス研究部	医療栄養科学講座(臨床栄養学)
18	COE教員	大学院ヘルスバ イサイエンス研究部	感覚情報医学講座(神経情報医学)
19	COE教員	大学院ヘルスバ イサイエンス研究部	分子情報薬学講座(薬品分子分析化学)
20	COE教員	大学院ヘルスバ イサイエンス研究部	感覚情報医学(神経情報医学)

フロンティア研究センターの構成

Members of Center for Frontier
Research of Engineering

センター長
Head

運営会議
Committee

ナノテクノロジー研究部門 Nano-Technology

光・電子デバイス分野
Advanced Optical and Electronic Devices

電気電子工学科物性デバイス講座

高機能加工分野
High Performance Processing

機械工学科材料強度学研究室

ナノマテリアルテクノロジー分野
Nano-Materials Technology

(日亜寄附講座)

人間情報工学研究部門 Human Information Engineering

発生再生遺伝情報工学分野
Genetic Engineering

生物工学科進化発生工学研究室

がん画像情報工学分野
Cancer Diagnostic Imaging

光応用工学科光情報処理研究室

感性情報工学分野
Affective Information Engineering

知能情報工学科知能工学研究室

地圏環境エネルギー研究部門 Geosphere Environment and Energy

長寿命・資源循環型材料分野
Recycled Materials and Maintenance

建設工学科材料系研究室

環境エネルギー創生分野
Environment and Energy Engineering

化学応用工学科化学プロセス工学講座反応工学研究室

寄附講座及び受託講座教員一覧

No.	現機関発令年月日	任期満了年月日	定数上の職名	所属	係・講座	区分
1	平成19年1月1日	平成20年12月31日	寄附講座教員	大学院ヘルスバイオサイエンス研究部	寄附講座（腫瘍内科学）	寄附講座教員
2	平成19年2月1日	平成20年12月31日	寄附講座教員	大学院ヘルスバイオサイエンス研究部	寄附講座（腫瘍内科学）	寄附講座教員
3	平成18年4月1日	平成23年3月31日	寄附講座教員	大学院ソシオテクノサイエンス研究部	ナノマテリアルテクノロジー（日亜）講座	寄附講座教員
4	平成18年4月1日	平成23年3月31日	寄附講座教員	大学院ソシオテクノサイエンス研究部	ナノマテリアルテクノロジー（日亜）講座	寄附講座教員
5	平成18年10月1日	平成23年3月31日	寄附講座教員	大学院ソシオテクノサイエンス研究部	ナノマテリアルテクノロジー（日亜）講座	寄附講座教員
6	平成19年10月1日	平成21年3月31日	教授	大学院ヘルスバイオサイエンス研究部	社会環境衛生学講座（地域医療学分野）	受託講座教員
7	平成19年10月1日	平成21年3月31日	助教	大学院ヘルスバイオサイエンス研究部	社会環境衛生学講座（地域医療学分野）	受託講座教員
8	平成19年10月1日	平成21年3月31日	教授	医学部・歯学部附属病院	糖尿病対策センター	受託講座教員
9	平成19年10月1日	平成21年3月31日	助教	医学部・歯学部附属病院	糖尿病対策センター	受託講座教員
10	平成19年11月1日	平成21年3月31日	助教	医学部・歯学部附属病院	糖尿病対策センター	受託講座教員

目 次

◇ I. 法人における自主的・自立的な設備整備への取組 ◇	
1. これまでの学内における設備整備に対する取組状況	1
1) 学術研究設備	
2) 教育・情報基盤設備	
3) 医療用設備	
2. 設備整備の現状と分析	2
1) 学術研究設備	
2) 教育・情報基盤設備	
3) 医療用設備	
3. 設備整備に対する課題と検討状況	4
1) 学術研究設備	
(1) 常三島地区	
(2) 蔵本地区	
2) 教育・情報基盤設備	
3) 医療用設備	
4. 計画的・継続的な設備整備に対する取組	7
1) 設備導入・更新の考え方	
2) 自助努力, 維持費の考え方	
3) 大学間における設備の連携使用, 再利用(リユース)の推進等の考え方	
5. 部局別共用機器一覧表	9
◇ II. 平成19年度設備要求 ◇	
6. 中期目標期間における設備整備の考え方(中期目標及び中期計画との関連性)及び年度別整備計画	13
7. 平成19年度に概算要求する設備の位置付け	17
1) 学術研究設備	
(1) 常三島地区	
(2) 蔵本地区	
2) 教育・情報基盤設備	
3) 医療用設備	
8. (別表) 年度別整備計画	19

学術雑誌（電子ジャーナル・データベースを含む）の
整備方策について

第2回附属図書館運営委員会

平成16年10月26日

平成16年11月16日開催の部局長
会議で館長より報告済

《基本的な考え方》

1. 予算関係

(1) 学術雑誌購入費

学術研究を支えるためには、安定財源の確保は必須である。そのため学術雑誌購入費（コア・ジャーナル経費）については、徳島大学第I期基本計画の期間中（H16～H21年度：2004～2009年）は、平成17年度（2005年）を上限金額で固定化し、大学の方針に併せて毎年1%削減する。

(2) 電子ジャーナル導入経費及びデータベース利用料

平成17年度以降、平成15・16年度と同様、電子ジャーナル導入経費及びデータベース利用料は共通的な経費として引き続き確保する。

2. コア・ジャーナル制度の継続

コア・ジャーナル制度の在り方については、常三島地区・蔵本地区の両地区で継続あるいは廃止の方向とそれぞれ意見があるが、この制度に替わる有力な方策はない。むしろコア・ジャーナル制度を維持することによって、コンソーシアム参加が維持され、閲覧可能雑誌のタイトルは増加する。従って、引き続きコア・ジャーナル制度は継続する。

《平成17年度（2005年）以降について》

1. 学術雑誌の電子ジャーナル化

平成17年度（2005年）は、電子ジャーナルのメリットを生かして、コア・ジャーナルは冊子体から電子ジャーナルへと順次移行を図る。

平成18年度（2006年）以降は、コア・ジャーナルは電子ジャーナルのみとする。

2. コンソーシアム参加（電子ジャーナル導入経費の充当）について

電子ジャーナル導入にあたって、コンソーシアムへの参加は、ACS, Science, Nature を優先する。

Science Direct, Wiley, SpringerLINK, Kluwer 等は、経費的にコンソーシアム参加が維持できなければ取り止め、その経費を重要な電子ジャーナル購読に充てる方向で該当誌名を協議する。

以上

○国立大学法人徳島大学職務発明規則（抜粋）

平成16年4月1日

規則第19号制定

第1章 総則

(目的)

第1条 この規則は、国立大学法人徳島大学(以下「大学」という。)の教職員等が行った発明等の取扱いについて規定し、大学の教職員に発明等を奨励するとともに、その発明者としての権利を尊重し、発明等によって得た特許等の知的財産の管理及び活用の合理的運用を図り、研究意欲の向上と社会的貢献に寄与することを目的とする。

(用語の定義)

第2条 この規則において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

- (1) 「発明等」とは、次に掲げるものをいう。
 - イ 特許法により保護される発明
 - ロ 実用新案法により保護される考案
 - ハ 意匠法により保護される意匠
 - ニ 商標法により保護される商標
 - ホ 不正競争防止法により保護されるもの
 - ヘ 著作権法により保護される著作物
 - ト 種苗法により保護される植物品種
 - チ 半導体集積回路の回路配置に関する法律により保護される回路配置
- (2) 「職務発明等」とは、大学が費用その他の支援をして行う研究等、又は大学が管理する施設設備を利用して行う研究等に基づき教職員等がなした発明等、並びに特許法第35条に規定する職務発明及び教職員等が、現在又は過去の職務に属する行為により、あるいは職務上でなした発明等をいう。ただし、著作物(プログラムの著作物を除く。)にあっては、大学が大学の著作の名義の下に公表するものに限る。
- (3) 「自由発明」とは、職務発明等以外の発明をいう。
- (4) 「知的財産権」とは、特許権、実用新案権、意匠権、商標権、著作権、育成者権、回路配置利用権及びその他の知的財産に関して法令により定められた権利又は法律上保護される利益に係る権利、並びに外国における上記各権利に相当する権利をいう。
- (5) 「発明者」とは、発明等を行った教職員等をいう。
- (6) 「教職員等」とは、教員(寄附講座、寄附研究部門の教員を含む。)、教員以外の職員並びに本学との間で雇用契約又は研究成果に係る譲渡契約を交わしているポスドク、大学院生、研究員、外国人研究員、非常勤職員及び学生をいう。
- (7) 「知的財産本部(以下「知財本部」という。）」とは、徳島大学研究連携推進機構規則(平成14年規則第1726号)に定めるものをいう。

**徳島大学の知的財産ポリシーおよび
利益相反ポリシーに関するQ & A（第2集）**

平成17年4月

国立大学法人徳島大学

研究連携推進機構知的財産本部

大学発ベンチャー企業に係る兼業についての考え方

平成17年 7月12日
徳島大学利益相反委員会
徳島大学知的財産本部

徳島大学の知的財産ポリシーについては、平成16年4月1日に制定された徳島大学第一期基本計画第5章「知的財産」に、基本的な考え方が述べられている。その中で、大学発ベンチャーについては次のように、それらを育成・支援するための方策が述べられている。

5-12 「大学発ベンチャー起業の推進」(大学技術による新産業創出への支援)

- (1) 新産業創出のため、大学発ベンチャー企業(大学技術によるスピンオフも含む)に大きな期待が寄せられている。大学は、大学が所有する知的財産権について、国立大学法人化以前のベンチャー企業に対して継続して、専用実施権の設定又は譲渡等を行う。
- (2) 教職員が兼業または独立したベンチャーを起業する場合、大学は、当該教職員の発明等で大学が承継し、権利化したものについて、優先的に専用実施権の設定又は譲渡等を行う。
- (3) 知的財産本部の徳島大学ベンチャープラットフォームの人材バンク等を活用して、知的財産を活用した新規事業創出の支援を行う。

法人化後、大学発ベンチャーに係る兼業許可に関し、主として利益相反問題に関連する審議を知的財産本部で行ってきた過程で、多くの問題が浮上した。それらの問題を整理し、知的財産本部が当該兼業申請に対する審議を行い、兼業許可決定を行う学長に対して上申する際の考え方を以下に示す。

- (1) ベンチャー起業については、知的財産ポリシーでも表明しているとおおり、本学はこれを推奨し、支援を行うこととしており、これは国の政策でもある。一方、本学の教職員が大学発ベンチャーと兼業する場合には、利益相反問題が発生しやすいことから、当該兼業審査の考え方を次のように各部署に周知しているところである。
- 自らの設立した企業であっても、大学における研究成果が、「共同研究契約」などの契約の無いまま、無制限にベンチャー企業等に流出することは防止しなければならないこと
- 自らの設立した企業であっても、ベンチャー企業の成果が、「共同研究契約」などの契約の無いまま、無制限に大学の研究に利用されることは防止しなければならないこと
- 兼業する教職員のトータル兼業時間(兼業先への移動時間を含む・年間)が、大学における本務に支障をきたす程長くないか?(賃務相反)
- 兼業時間が、兼業先の職務を果たすために、合理的に設定されているか?
- 奨学金(委任経理金)が、兼業の対価としての位置付けがされているなど、不公正な対価の受け取りが行われていないか?

- (2) 大学発ベンチャーの内、特に親族が出資して起業するものについては、大学の業務が企業の利益に故意的に荷担する状況が生じやすいことを否定できない。大学発ベンチャーは、自らの研究成果を用いたものであり、研究者自らも出資した会社の利益を創出するため、親族や友人有志を出資者として設立した場合でも、自ら出資した会社の利益を創出するため、会社の発展につくすことは民法上当然のことであり、利益を得るために故意的に荷担することは十分考えられる。具体的には、大学の研究成果が無契約で流出したり、大学の業務とベンチャー業務の区別がつきにくいなど、利益相反問題が発生しやすいことが想定される。
- (3) 大学や国の関係機関は、ベンチャーの創出を推奨し、支援する政策を掲げる以上、利益相反問題が発生するリスクを本来的に持っていることを意味し、それらのリスクの故に研究者が親族出資のベンチャーと兼業することを一概に制限することは適切ではない。親族が出資するベンチャーは、起業の初期段階では、秘密保持が容易であることなど、利点が多く、一般的にはむしろ推奨されていることを踏まえ、大学においても緩やかな許可条件を設定し、幅広い教職員に兼業の可能性を開くことが重要である。

- (4) 大学は、このような許可条件緩和に伴うリスクを軽減し、教職員個人に代わって社会に対する説明責任を果たし、教職員が安心して大学の業務に打ち込める環境を醸成することが重要である。それらの努力によって、透明性の高い兼業の可能性を高め、本学の産学連携等に対する貢献を社会に強く印象づける事が出来る。

- (5) 大学が、以上のような兼業を適正に支援するためには、利益相反問題に発展する可能性を未然に防止することが極めて重要であるため、知的財産本部および利益相反アドバイザーは、兼業許可の可否を審議するだけでなく、次のような観点で大学発ベンチャーに係る兼業の状況を不断に調査し、実情に応じて必要な助言と助告を行う。当該教職員において、これらの助言・助告に対する対応が適切に行われない場合は、利益相反委員会で審議し、解決策を学長に上申する。

- ・必要に応じて、兼業活動日誌等の作成・記入を助告する。
- ・必要に応じて、利益相反アドバイザーに対する兼業活動の定期的な報告を助告する。
- ・大学発ベンチャー等への兼業は、実験ノートの記載を義務づけ、兼業先との研究状況を、必要に応じて明確に説明できるように指針する。
- ・大学発ベンチャー等への兼業は、年2回程度の利益相反アドバイザーに対する報告および、必要に応じてアドバイザーのヒヤリングを受けることを義務づける。
- ・兼業活動に関する疑問や問題がある場合には、随時利益相反コーディネーターやアドバイザーに相談するように指針する。

その他分野

産学官連携情報配信システム－TPAS-Net（ティパス・ネット）－

キーワード：最新の特許、シーズ、ニーズ、ID情報の自動配信・産学連携マッチングサービス・簡単検索から詳細検索

連携 機関

- 徳島大学知的財産本部 副本部長 佐竹 弘
- (株)グリーンネット 社長 金城 功



佐竹教授



金城社長

【要 約】

「TPAS-Net（ティパス・ネット）」は、徳島大学知的財産本部が蓄積してきた産学連携コーディネート技術と、(株)グリーンネットが持つ特許検索技術を統合し、特許、シーズ、ニーズ、研究者情報など知的情報を一括して横断検索する機能、自動選別した最新知的情報の個別自動配信機能、コーディネータの活動を支援するマッチング機能等を実現すると共に、各大学がバーチャル上で上記機能を共有した連携インフラを形成し、もって、大学の社会貢献が実現するものである。

【技術移転の概要】

●技術への貢献

- ・ 所望のキーワードで、約750万件の特許情報と約10万件的全国の研究者、企業等のシーズ、ニーズ、ID情報を一括横断検索
- ・ 利用者が登録したキーワードにマッチングした最新の情報を毎週1回自動配信
- ・ 融合情報からコンタクトができる、産学連携マッチングサービスの提供
- ・ 同一画面で操作が可能な遷移の少ない画面構成
- ・ 知財情報に不慣れなユーザに対する検索式作成支援機能

●社会への貢献

各大学が上記知的情報を共有し、情報主体として各地元企業に情報発信することから、有用な知財情報の獲得に不慣れな多くの中小企業に対して、適切かつ効率的な情報提供ができることから、その活用機会を増進し、もって中小企業の振興を促進する一助となる。一方、大学等の研究者は、社会から求められる研究分野の推移を必然的に察知でき、研究目標確立のヒントを得ることができる。また、産学官連携コーディネータが、利用者間のコンタクトをWeb上で普及に実現することから、効率的な産学連携マッチングが可能となり、経験を活かした有効なコーディネート方法で社会の経済的な発展に貢献することが期待される。さらに、海外の大学との産学連携インフラをバーチャル上で形成することができ、国際的な産学連携の推進に一助をなす。

産学官連携のきっかけ

これまでの大学研究者の学際用語での、産学連携マッチングは困難であったが、特許情報配信事業者との共同研究の結果、双方向による特許情報と融合することで、その有効性が確認できたこと。

ファンディングの推移

1. 平成15年～18年 文部科学省
「大学知的財産本部整備事業」
2. 平成17年～18年 経済産業省
「広域的新事業支援ネットワーク拠点重点強化事業」

知的財産保護の経緯

- 特許取得・外国出願
- 1. 「連携型知財管理システムによる知財創出支援方法」（ビジネスモデル）
特許03781375号
PCT/JP2005/009488(10カ国)
国際調査報告書「A」ランク

成功・失敗の分かれ道

- 現在13大学及び都内数千社が参加しており、更なる利用者の増加が必要
- 大学側の分野ごとの産学連携コーディネータの増員が必要
(例えば、JSTサテライトのコーディネータやNEDOフェローの活用)

TPAS-Net（ティパス・ネット）画面



検索から情報表示まで画面遷移の少ない画面構成

徳島地域連携協議会設置要項

設置

第1 徳島県、徳島県教育委員会、徳島県市長会及び徳島県町村会並びに徳島大学は連携・協力し、連携事業の実施に関する企画・調整を行い、徳島県内の地域に貢献するため、徳島地域連携協議会(以下「協議会」という。)を置く。

業務

第2 協議会は、次の業務を行う。

- (1) 地域連携の企画・調整に関すること。
- (2) 連携事業二一ズに係る情報収集に関すること。
- (3) 連携事業の実施計画に関すること。
- (4) 実施される連携事業の広報に関すること。

組織

第3 協議会は、別表に掲げる委員をもって組織する。

会長及び副会長

- 第4 協議会に会長及び副会長を置き、その選出は委員の互選とする。
- 2 会長は、協議会を招集し、その議長となる。
- 3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

会議

- 第5 協議会は、原則として年2回開催するものとする。
- 2 協議会は、委員の過半数の出席がなければ会議を開くことができない。
- 3 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

代理出席

第6 第3の委員が会議に出席できないときは、代理の者を出席させることができる。

委員以外の者の出席

第7 協議会が必要と認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。

専門部会

第8 協議会に、必要に応じて、事業実施専門部会(以下「専門部会」という。)を置くことができる。

2 専門部会の構成員は、徳島県、徳島県教育委員会、徳島県市長会及び徳島県町村会並びに徳島大学のうちから連携事業の実施のために選出された実務担当若とする。

3 専門部会は、専門的事項に関わる連携事業を円滑に実施する。

4 専門部会は、連携事業の実施状況・成果等を速やかに協議会に報告する。

庶務

第9 協議会の庶務は、徳島大学総務部企画・評価課において処理する。

雜則

第10 この要項に定めるもののほか、協議会について必要な事項は協議会の議を経て定めるものとする。

附則

この要項は、平成15年2月4日から実施する。

附則

この要項は、平成16年7月1日から実施する。

附則

この要項は、平成17年8月4日から実施する。

附則

この要項は、平成18年8月1日から実施する。

[HOME]

平成19年度 徳島地域連携協議会委員名簿

平成19年7月1日現在

所	属	備考
徳島県	徳島県理事 (企画総務部総合政策局長)	副会長
	企画総務部総合政策局政策調査員 (危機管理担当)	
	企画総務部総合政策局政策調査員 (県民環境担当)	
	企画総務部総合政策局政策調査員 (保健福祉担当)	
	企画総務部総合政策局政策調査員 (商工労働担当)	
	企画総務部総合政策局政策調査員 (農林水産担当)	
	企画総務部総合政策局政策調査員 (県土整備担当)	
	企画総務部総合政策局政策調査員 (行動計画推進担当)	
	教育総務課長	
徳島県教育委員会	学校政策課長	
徳島県市長会事務局長		
徳島県町村会常務理事		
徳島大学	副学長 (総務担当)	会長
	副学長 (教育担当)	
	学長補佐 (国際関係担当)	
	地域連携推進室長	
	大学開放実践センター長	
	高度情報化基盤センター長	
	産学連携研究企画部長	
	環境防災研究センター長	
	地域創成センター長	
	総務部長	
学務部長		
医学部・歯学部附属病院事務部長		
情報部長		

社会連携推進機構 機構長

徳島大学地域創生センター
センター長
副センター長

地域ICT化推進部門
部門主任

地域マネジメント部門
部門主任

地域資源活用部門
部門主任

地域連携教育開発部門
部門主任

社会連携推進本部
本部長
副本部長

地域連携推進室

室長
企画推進員
(7名)

国際連携推進室

室長
企画推進員
(7名)

支援組織：徳島大学各学部・各センター
支援施設：徳島大学地域・国際交流プラザ(日亜会館)

支援事務組織

総務部企画・評価課

研究国際部国際課



平成19年度 地域連携事業成果報告書

目次

徳島大学長(社会連携推進機構長)の挨拶	1
徳島大学の地域連携事業 ―実施体制と平成19年度事業報告の概要―	2

地域連携推進室主催事業

平成19年度 徳島大学タウンミーティング(第4回) 「ひろめよう にこにこプロジェクトG」	8
平成19年度 徳島大学地域交流シンポジウム(第5回) 「どうする地域の再生 ― 住民主役のまちづくり ―」	9

文部科学省大学教育改革の取組採択事業

現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)「地域活性化への貢献」

医療系学生の保育所実習による子育て支援	10
---------------------	----

徳島大学パイロット事業支援プログラム(社会貢献)採択事業

国史跡「勝瑞城館跡」を核とした藍住町まちづくり支援プログラム	11
中山間地域に於ける地域再生人材創出拠点の形成	12
特別支援教育のための学習支援ボランティア教育支援プログラム	13
LEDアートフェスティバルによる徳島市・阿南市の活性化支援教育プロジェクト	14
多機関連携による運動と食育の推進プログラム作成と実践	15

平成19年度 徳島大学地域貢献プラン 個別事業

情報	情報化と情報提供(情報発信・住民サービス)	
	先進的ICT活用支援事業	17
	GISを用いた地域情報処理・活用支援事業	18
人	GISハザード情報を活用した企業防災推進支援事業	19
	地域活動の活性化(地域課題・人材養成)	
	中山間地域活性化支援事業	20
	ボランティア・市民活動立ち上げ支援事業	21
心	徳島市沖洲地区自主防災活動支援事業	22
	地域社会の共生支援(国際交流・生涯学習)	
体	多文化交流・地域共生事業	23
	生きる力支援(医療・保健・福祉)	
	総合医療情報ネットワークの構築事業	24
	小児生活習慣病対策・徳島県の糖尿病対策事業	25
	健康生活・地域スポーツ支援事業	26

平成19年度 徳島大学地域連携公開事業

パパママ教室「口からはじまる健康な体づくり」(はじめよう! 妊婦期からのお子さまのむし歯予防)	27
ファミリーサイエンス教室(あすたむらんど徳島)小学校高学年を対象とした霧箱作成と放射線観測事業	28
地域交流の拠点「ガレリア新蔵」	29
徳島大学における地域連携事業一覧	30
報道記事に見る徳島大学の地域貢献事業	33

患者の皆様へ

面会の方へ

医療関係者の方へ

 文字サイズ 大きく ▶ 標準
 サイト内検索 検索

受診のご案内

初診の方

再来の方

受付フロアのご案内

診療・受付時間

PET/CT検査のご案内

駐車場のご利用について

入院のご案内

入院される皆様へ

入院手続きについて

入院費用

ご家族・ご友人の方へ

診断書・証明書

施設のご利用案内

看護部ニュース

外来紹介

病棟紹介

院内紹介

各診療科のご紹介

各部・センターのご紹介

各種相談窓口

まちの保健室(相談室)

ニュース

交通案内



各部・センターのご紹介



▲各部・センター一覧へ

地域医療連携センターのご紹介

紹介

診療時間

相談窓口

スタッフ紹介

ご紹介

リンク

紹介

徳島大学病院では、1999年に患者さまのQOL(生活の質)の向上を目的とした相談窓口である継続診療・看護相談室を設置しました。2004年にMSW(医療ソーシャルワーカー)が加わり、FAX予約などの地域連携業務も開始して地域医療連携センターとなりました。本センターは患者・家族の方の保健・医療・福祉に関する総合相談と地域連携を行っております。専任の医療ソーシャルワーカー、看護師、事務職員が医師等と連携をとりチームで対応いたしますので、お気軽にご相談ください。

なお、詳しい相談や業務の内容については、すぐ上の項目「ご紹介」をクリックしてご覧ください。

診療時間

午前の診療	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
医療福祉相談	担当者 5名	担当者 5名	担当者 5名	担当者 5名	担当者 5名
看護相談・在宅療養 相談(予約制)	担当者 2名	担当者 2名	担当者 2名	担当者 2名	担当者 2名
難病相談			担当者 2名	担当者 2名	

午後の診療	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
医療福祉相談	担当者 5名	担当者 5名	担当者 5名	担当者 5名	担当者 5名
看護相談・在宅療養 相談(予約制)	担当者 2名	担当者 2名	担当者 2名	担当者 2名	担当者 2名
難病相談			担当者 2名	担当者 2名	

参照URL http://www.tokushima-hosp.jp/part_center/circulatory.html?rank_code=center&belong_code=6



徳島大学における国際化ポリシー

基本理念

徳島大学は、世界に通用する人材の育成と教育研究の向上に大学全体として組織的に取り組むとともに、地域に根ざした国際交流活動を展開し、同時に学生および教職員の国際化意識の向上を推進することにより“世界に開かれたTHE UNIVERSITY OF TOKUSHIMA”の実現を目指します。

情報化メディアの進歩に伴い、この10年ほどの間にグローバルな視点での国際化が急速に進展しております。学術教育活動や企業活動などに留まらず、私達は日常生活の中で国際的な出来事やイベント、人との出会いなどを多く体験し、これらを通じて世界が益々狭くなりつつあることを実感します。こうした中で、徳島大学においても「国際化とは何か」というテーマを大学教職員や学生が真剣に考え直し、徳島の地域性を活かした上で、今後の科学技術や学術教育活動をさらに国際展開させ、それを戦略的に推進する必要があります。中期目標にも掲げられている多くの国際交流事業を推進させるためには、大学職員および学生一人一人の国際化に関する前向きな意識向上がきわめて重要なエネルギーとなります。そこで、徳島大学における国際化に関する基本理念を以上のように掲げ、大学全体としての明確な指針を示すことによって、徳島大学が世界に必要とされる大学として存在し、地域と融合した形で国際化が進み、今後益々発展するように徳島大学国際化ポリシーを策定しました。

A. 教育の国際展開戦略

B. 研究の国際展開戦略

C. 大学国際戦略本部(インターナショナル・センター)設置構想

▶ [ホームへ戻る](#)

平成19年度 学生・地域サポーター活動状況

留学生センターには、日本語教育をはじめとする留学生センターの活動を支援する徳島の住民からなる「地域サポーター」と徳島大学の学生からなる「学生サポーター」の登録システムがある。日本語教育等の中に教員以外のネイティブスピーカーが参加することは、留学生の学習意欲を高めるとともに留学生と学生・地域サポーターにとっては異文化コミュニケーションの実践の場となっている。

現在サポーター数は、地域サポーター59名、学生サポーター35名、計94名である。今年度の活動数は15で、延べ参加者数は地域71名、学生20名、計91名であった。

留学生サポーター 活動参加一覧表

回	実施月	内 容	参加人数
1	5月	書道体験学習 (漢字学習の予備学習)	地域サポーター 5名
2	5月	会話練習	地域サポーター 3名 学生サポーター 4名
3	5月	問題・課題解き	地域サポーター 4名 学生サポーター 2名
4	5月	会話・動詞変換練習	地域サポーター 4名 学生サポーター 2名
5	6月	作文チェック	地域サポーター 4名
6	6月	映画鑑賞及び話し合い	地域サポーター 4名 学生サポーター 1名
7	7月	フリートーク (大石)	地域サポーター 5名 学生サポーター 1名
8	7月	日本語表現 (作文) にコメント	地域サポーター 3名
9	7月	インタビュー	地域サポーター 5名 学生サポーター 3名
10	7月	アンケート作り	地域サポーター 5名
11	9月	コース修了式	地域サポーター 12名 学生サポーター 2名
12	10月	キャンパスツアー	学生サポーター 2名
13	11月	日本語会話練習	地域サポーター 3名
14	11月	書道体験学習 (漢字学習の予備学習)	地域サポーター 5名 学生サポーター 3名
15	2月	コース修了式	地域サポーター 9名

第4回 徳島大学国際展開推進シンポジウム

母国で振り返る 私の徳島大学留学生時代

企画：徳島大学国際連携推進室、留学生センター

徳島大学に留学し帰国後母国で活躍されている方々のお話を聞く会です。
徳島での留学生活は母国でどのように活かされているのでしょうか？
日本語による講演です。大学外からの参加者も歓迎します。

期日 / 平成20年 2月29日(金) 午後3時～5時30分

場所 / 阿波観光ホテル4階ホール

入場無料

人口移動と教育：日本とトンガにおける私の経験

トンガ王国教育省 Raelyn Lolohae Latus 'Esau 氏(トンガ王国)
(座長 平井松午 総合科学部教授)

機会の場所、徳島を去って世界へ

大韓民国特許庁 李 溶培 氏(韓国)
(座長 直井美貴 ソシオテクノサイエンス研究部准教授)

ブラジルにおける歯科事情：いくつかの問題点

ポンティフィカルカトリック大学リオグランデドソル校歯学部
歯科補綴学講座助教授 HIRAKATA Luciana Mayumi 氏(ブラジル)
(座長 浅岡憲三 歯学部教授)

徳島大学医学部での留学生活

中国南京大学生命科学学院院长・教授 張 辰宇 氏(中国)
(座長 齋藤史郎 元徳島大学長)

連絡先：徳島大学 国際課 国際交流係 (TEL 088-656-7634)